

あてらざわたてやまじょうあと
左沢楯山城跡調査報告書 (13)

史跡左沢楯山城跡 第1期保存整備に伴う確認調査報告書 (2)

平成 25 年 3 月

大江町教育委員会



八幡座地区山頂部C 1 全景（北から）



千畳敷地区堀切周辺B 3 5区 溝跡（北から）



八幡座地区谷部C 21 3 T 溝跡（東から）



八幡平地区楯山公園B 4 から望む最上川

序

本書は、平成24年度に実施した史跡左沢楯山城跡確認調査の概要をまとめたものです。

左沢楯山城跡は平成5年から調査を実施し、平成21年2月に国史跡の指定を受けました。

平成22年に策定した「大江町教育振興計画」では、史跡左沢楯山城跡保存管理計画に基づき史跡としての価値の保存を前提としたうえで、「町の宝」として利活用を図るための保存・整備を進めることとしております。

平成23年度からは、保存整備を実現するために左沢楯山城跡の発掘調査を再開しました。さらに、ワークショップなどさまざまな取組みをとおして、地域においても城跡への関心が高まり、平成24年3月には史跡左沢楯山城跡の保存整備基本構想を策定いたしました。

本書では、第1期の保存整備を目的とする発掘調査の2年度目に実施した八幡座地区と千畳敷地区、八幡平（楯山公園）地区における調査の概要について報告いたします。

平成25年、史跡左沢楯山城跡を含む「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が重要文化的景観の選定を受けました。史跡左沢楯山城跡は、西村山郡の歴史を知るのに欠かせない貴重な遺跡であり、本町の重層的な文化的景観形成にとっても欠かせない重要な構成要素です。今に生きる私たちは、この貴重な史跡を町の誇りとしてまちづくりに生かし、次代へと引き継がなければなりません。歴史と文化を見つめ直し、自然と風土に立脚した着実な地域づくりを推進していくために、本書がその一助として活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成25年3月

大江町教育委員会

教育長 富樫 是行

例 言

1 本報告書は平成24年度に大江町教育委員会が国庫補助を受けて実施した、国指定史跡左沢楯山城跡の確認調査の報告書である。

2 事業期間は平成24年4月1日から平成25年3月31日までである。

3 調査体制は以下のとおりである。

調査主体 大江町教育委員会 教育長 富樫 是行

調査担当 佐藤 庄一（山形考古学会 副会長）、茨木 光裕（日本考古学協会 会員）

櫻井 洋志（大江町教育文化課 歴史文化主査兼係長）菊地 泰子（同 主事）

作業員 佐竹 洋一、庄司 由美、林 則雄、林 正春、松田 富弥

事務局 大江町教育委員会 教育長 富樫 是行

松田 健一（教育文化課長）、清水 正紀（同 社会教育・歴史文化主幹）

櫻井 洋志、菊地 泰子

本調査にあたって史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会を組織し、指導と助言をいただいた。委員等は以下のとおりである。

4 委員長 伊藤 清郎

オブザーバー 川崎 利夫、横山 勝栄

委員 阿子島 功、大場 雅之、金山 耕三、佐藤 庄一、田中 哲雄、吉野 智雄

（五十音順、敬称略）

5 本調査で行なった委託業務等は以下のとおりである。

遺構測量及び図化業務 株式会社 寒河江測量設計事務所

放射性炭素年代測定業務 山形大学 高感度加速器質量分析センター

埋め戻し時重機操作 林建設株式会社

6 本調査の出土遺物・調査記録類は大江町教育委員会で保管している。

7 本調査を実施するにあたり、次の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝を申し上げます。

文化庁、山形県教育庁文化財保護推進課、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

天本 昌希、大場 正善、大宮 富善、大類 誠、高桑 登、手塚 孝、宮田 直樹

（五十音順、敬称略）

8 本書の編集・執筆は、佐藤庄一氏と茨木光裕氏の指導を受け、遺物については公益財団法人山形県埋蔵文化財センターの高桑登氏、大場正善氏等に助言と指導をいただいて菊地泰子が担当した。

また、「史跡左沢楯山城跡外郭トレンチ試料15点の年代測定結果」は山形大学高感度加速器質量分析センターの門叶冬樹氏ほか執筆し、委託業務成果品として町に提出された報告書を転載した。

9 本書の挿図は縮尺が不統一であり、各図にスケールを示した。

10 本書で使用した座標値は、世界測地系平面直角座標第X系による。高さは標高で示し、方位は座標北を示す。なお、本調査は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震以降に実施したが、地震前の与点成果をもとに座標及び標高の計算を行なって、その値を使用している。

11 本書における土層の色調記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の2006年版『新版基準土色帳』による。

12 調査区の名称は、昨年に引き続き蛇沢と千畳敷地区の調査区はB3、八幡座地区の山頂部はC1と示す。今年度新しく調査をおこなった八幡座地区の谷部はC21、八幡平地区の楯山公園部分はB4とする。Tは調査区内におけるトレンチを示す。なお八幡座地区や蛇沢地区などの地区名称は『史跡左沢楯山城跡保存管理計画書』による。

目次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 調査の経緯と目的	・・・ 2
II 遺跡の立地と環境	・・・ 3
III 八幡座地区山頂部C1の調査	・・・ 5
1 調査の概要	・・・ 5
(1) 経緯 (2) 方法と経過	
2 調査の成果	・・・ 8
(1) 概要 (2) 遺構	
IV 八幡座地区谷部C21の調査	・・・ 13
1 調査の概要	・・・ 13
(1) 経緯 (2) 方法と経過	
2 調査の成果	・・・ 15
(1) 概要 (2) 遺構 (3) 遺物	
V 千畳敷地区堀切周辺B3の調査	・・・ 21
1 調査の概要	・・・ 21
(1) 経緯 (2) 方法と経過	
2 調査の成果	・・・ 23
(1) 概要 (2) 遺構 (3) 遺物	
VI 八幡平地区楯山公園B4の調査	・・・ 29
1 調査の概要	・・・ 29
(1) 経緯 (2) 方法と経過	
2 調査の成果	・・・ 31
(1) 概要 (2) 地形 (3) 遺物	
史跡左沢楯山城跡サンプルの年代測定	35
図版	
報告書抄録	
文献	

挿図目次

第1図 左沢楯山城跡縄張り	4
第2図 左沢周辺の中世城館跡	4
第3図 左沢周楯山城跡発掘調査区位置図	6
第4図 八幡座地区山頂部C1 平面図	9
第5図 八幡座地区山頂部C1 東部 遺構平面図	9
第6図 八幡座地区山頂部C1 北部 遺構平面図	10
第7図 八幡座地区山頂部C1 南部 遺構平面図	11
第8図 八幡座地区山頂部C1 土層断面図	12
第9図 八幡座地区谷部C21 トレンチ・調査区配置図	14

第10図 八幡座地区谷部C21 2TN・2TS遺構平面図・土層断面図	16
第11図 八幡座地区谷部C21 3T・5区遺構平面図・土層断面図	17
第12図 八幡座地区谷部C21 1T・4TE・4TW・6TE・6TW遺構平面図・土層断面図	18
第13図 八幡座地区谷部C21 出土遺物1	19
第14図 八幡座地区谷部C21 出土遺物2	20
第15図 蛇沢周辺の地形及び千畳敷地区堀切周辺B3調査区配置図	22
第16図 千畳敷地区堀切周辺B3 5区南部 遺構平面図・土層断面図	24
第17図 千畳敷地区堀切周辺B3 5区北部 遺構平面図・土層断面図	25
第18図 千畳敷地区堀切周辺B3 6T 遺構平面図・土層断面図	26
第19図 千畳敷地区堀切周辺B3 7区 遺構平面図・土層断面図	26
第20図 千畳敷地区堀切周辺B3 出土遺物1	27
第21図 千畳敷地区堀切周辺B3 出土遺物2	28
第22図 八幡平地区楯山公園B4 平面図	30
第23図 八幡平地区楯山公園B4 土層断面図1	32
第24図 八幡平地区楯山公園B4 土層断面図2	33
第25図 八幡平地区楯山公園Ⅷ～Ⅷb層(旧表土) 出土遺物	34

表目次

第1表 史跡指定までに行われた調査	2
第2表 遺構番号対応表	7

図版目次

写真図版1 八幡座地区山頂部C1 曲輪東側下部	
写真図版2 八幡座地区山頂部C1 曲輪東部	
写真図版3 八幡座地区山頂部C1 曲輪東部	
写真図版4 八幡座地区山頂部C1 曲輪東側斜面の土層断面図	
写真図版5 八幡座地区山頂部C1 調査区写真	
写真図版6 八幡座地区谷部C21 5区・3T 溝跡 SD1511	
写真図版7 八幡座地区谷部C21 5区・3T 溝跡 SD1511、SD1512 土層断面	
写真図版8 八幡座地区谷部C21 4TW 整地層③と遺物出土状況	
写真図版9 八幡座地区谷部C21 全景	
写真図版10 八幡座地区谷部C21 調査区写真	
写真図版11 千畳敷地堀切周辺区 B3 調査区写真(5区)	
写真図版12 千畳敷地区堀切周辺 B3 調査区写真(6T)	
写真図版13 千畳敷地区堀切周辺 B3 調査区写真(7区)	
写真図版14 八幡平地区楯山公園 B4	
写真図版15 八幡平地区楯山公園 B4 4Tと6TS 全景	
写真図版16 八幡平地区楯山公園 B4 4T	
写真図版17 八幡平地区楯山公園 B4 6TS	
写真図版18 八幡平地区楯山公園 B4 調査区写真	

I 調査の経緯と目的

本調査は、史跡左沢楯山城跡の保存整備を目的として、史跡の内容を確認するために行なった。

左沢楯山城跡については、平成5年度に「左沢楯山城跡調査検討委員会」、平成6年度から「左沢楯山城跡関連調査検討委員会」が中心となり、平成10年度から大江町教育委員会が主体となった調査が行なわれた(第1表)。そして、平成21年2月12日に字元屋敷、字楯山、字裏山の246,882.72㎡が「左沢は村山地方から南の置賜地方へ抜ける交通の要衝であり、左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏等との抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知るうえで貴重な城跡である」として文化財保護法の規定により国史跡の指定を受け、翌年2月22日には「寺屋敷」周辺の1,629㎡が追加指定を受けた。

平成22年3月、大江町教育委員会は史跡左沢楯山城跡保存管理検討委員会の指導のもと『史跡左沢楯山城跡保存管理計画』を策定し、同年9月、史跡指定地を「左沢楯山城史跡公園」とする「大江町史跡公園の設置及び管理に関する条例」を制定した。併せて平成22年度からは史跡地内の公有地化を行ない、平成25年1月1日現在で史跡の9割以上が大江町有地となっている。このような動きの中で広く史跡を見学できるような整備を望む機運が高まり、平成22年に「史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会」を設置。町教育委員会では平成24年3月に『史跡左沢楯山城跡保存整備基本構想』を策定している。

基本構想では、史跡の公開に必要な動線の設定と安全確保、並びに地形や立地を利用した山城跡としての景観整備などを第1期整備として予定している。なかでも危険防止や地形変化を防ぐ観点から、楯山公園部分について早期の整備が求められている。

これらの現状を受け、第1期保存整備に伴う発掘調査を平成23年度からの4カ年で計画し、史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会、文化庁及び山形県の指導を仰ぎながら、保存整備のための発掘調査に着手した。平成23年度は、蛇沢地区と八幡座地区でそれぞれ62㎡、80㎡の調査を実施した。

本書では、昨年度に続き平成24年度に実施した蛇沢地区と八幡座地区、八幡平地区における調査の概要について報告を行ない、平成26年度に第1期保存整備のための調査成果をまとめた報告書の刊行を予定する。

第1表 史跡指定までに行なわれた調査

年	調査の内容			
1993	文献調査：「金仲山眼明阿弥陀尊略縁起」・「天文本大江系図」・「性山公治家記録」・「天正二年伊達輝宗日記」・「最上義光分限帳」			
1994	文献調査：「羽州川通絵図」・「左澤絵図面」・「左澤御領内御絵図」			
	縄張調査	発掘調査	遺構	遺物
1995	元屋敷	八幡座：50㎡	柱穴跡	
1996		八幡座C6・7：160㎡	柱穴跡・溝跡	
1997		千畳敷B1：144.25㎡	柱穴跡・溝跡	
1998	千畳敷、寺屋敷	千畳敷B1・堀切：540㎡、 寺屋敷C8：465㎡	柱穴跡・溝跡・堀跡	近世陶磁器
1999	八幡平、寺屋敷	寺屋敷C8：465㎡	柱穴跡・溝跡	近世陶磁器・鉄製品
2000	八幡座	寺屋敷C8：465㎡	柱穴跡・溝跡・石組	須恵器・中世磁器 近世陶磁器・鉄製品
2001	北外郭	八幡座C1、2、3：208㎡、 寺屋敷C8：150㎡	柱穴・溝・石組	近世陶磁器・砥石 硯・鉄製品
2002	裏山	八幡座C4、5：209.25㎡、寺屋敷C9：300㎡	柱穴跡・土坑	
2003	裏山	寺屋敷C9：660㎡、八幡平B2：50㎡	柱穴跡・布堀	
2004	裏山	八幡座C11、12・13、16、17、19：396.5㎡、 寺屋敷C20：50㎡	柱穴跡・小竪穴	近世陶磁器・鉄製品
2005	裏山	寺屋敷C8：62㎡	柵跡・溝跡・柱穴跡	近世陶磁器・鉄製品
2006	裏山	元屋敷C1：65㎡	柱穴跡・溝跡	中世磁器・近世陶磁器・鉄製品
2007	裏山	元屋敷C1：100㎡	柱穴跡・溝跡	中世磁器・近世陶磁器・鉄製品
2008		元屋敷C2、3：37㎡	柱穴跡・溝跡	中世磁器・近世陶磁器

Ⅱ 遺跡の立地と環境

史跡左沢楯山城跡は山形県西村山郡大江町大字左沢字元屋敷、字楯山、字裏山に所在する。大江町は山形県のほぼ中央で、町を流れる最上川は置賜から五百川峡谷を北流し、城跡がある楯山の山塊にぶつかって流れの向きを変え村山盆地に流れ出る。左沢は最上川と月布川合流点付近の低位段丘上に位置し、楯山は市街地の北側で標高 222.13 m、麓を流れる最上川（標高約 100 m）と約 120 m の比高差がある。

楯山周辺の地層はほとんどが泥岩、砂岩、凝灰岩などからなっている。下位から第三紀中新世の葛沢層、大谷層、第三紀鮮新世の左沢層（稲沢山砂岩部層、左沢挾炭部層）である（山形県 1986）。楯山の上部付近は稲沢山から連続している砂岩及び細礫を含む稲沢山砂岩部層で、「八幡平」から楯山公園付近に露出している地層は、固結度の低い砂岩である（阿子島 2010）。

これまでの調査で、左沢楯山城は東西 480 m ほどの規模であることが分かっており、南側は最上川に面した急崖、東側と北側は楡木沢の深い溪谷が形成されている（第 1 図）。城は天然の沢（蛇沢）を取り込んだ構造で、この沢によって城跡の最頂点を有する北部の丘陵と、最上川に面した南部の丘陵に分けることができる。

城跡北部の丘陵では、縄張調査で多数の曲輪が確認されている。城跡の最頂点「八幡座」すぐ下の「ゴホンマル」と呼ばれる曲輪では、発掘調査で主殿と推定される掘立柱建物跡が検出された。「八幡座」とその周辺をとりまく曲輪一帯が城の中核を成したと考えられている。また「寺屋敷」と呼ばれる城内最大の面積を誇る曲輪も存在し、大型の掘立柱建物跡や石組遺構が確認されている。

城跡南部では、東西に延びる尾根上に曲輪が造られている。尾根は堀切で分断され、最上川から尾根南側の斜面を登るルートがこの堀切に至ることが指摘されている（伊藤ほか 2007）。堀切の東側には、掘立柱建物跡や竪穴が確認された「千畳敷」と呼ばれる曲輪、西側には「八幡平」や楯山公園（日本一公園）がある。

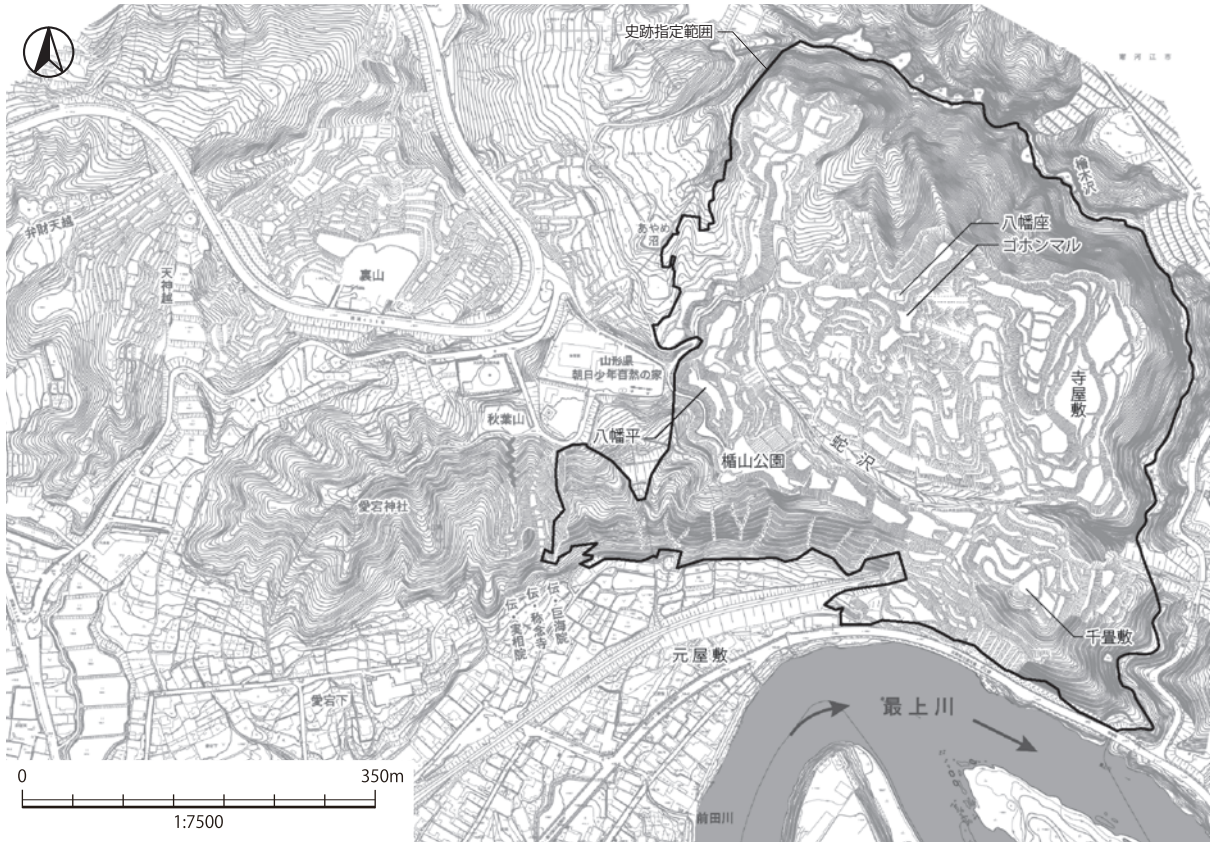
大江町の歴史的な環境としては、町を流れる月布川に石器の原料となる珪質頁岩が分布し、川沿いの段丘上で縄文時代中期末葉の竪穴住居が検出された石器製作遺跡（橋上遺跡）が確認されている。また、最上川左岸に位置する藤田の窯跡では 9 世紀中葉頃の所産と考えられる資料が出土しており（渋谷 2012）、左沢楯山城跡の「寺屋敷」で出土した 9 世紀後半の須恵器杯は、藤田窯跡の製品と推定されている（川崎 2007）。

西村山郡一帯は寒河江荘として摂関家領であったが、文治 5 年（1189）地頭として大江広元が補任される。地頭職は建久 3 年（1192）に広元から長男の親広に相伝され、その後子孫が知行した。大江氏は 14 世紀後半に柴橋や白岩、左沢、溝延などに一族を配して領内の防備と支配を図ったとされ、このとき（正平年間頃）、寒河江大江氏七代時茂の三男元時によって左沢楯山城が築城されたと考えられている。天正 2 年（1574）には、天童や谷地、白岩・溝延・左沢の城主が、最上義守・伊達達輝に奉公して、対立していた義光側の寒河江城を攻め落とした記録があり（『性山公治家記録』）、諸族が自立、分立した様子がかがわれるが、天正 12 年に最上義光が寒河江大江氏を攻略し、左沢も最上氏の支配下に置かれる。慶長 5 年（1600）の出羽合戦で、左沢楯山城も何らかの役割を果たしたとの指摘があり（北島 2007）発掘調査で出土した遺物からは 15 世紀後半から 17 世紀前葉の存続期間が確認されている。

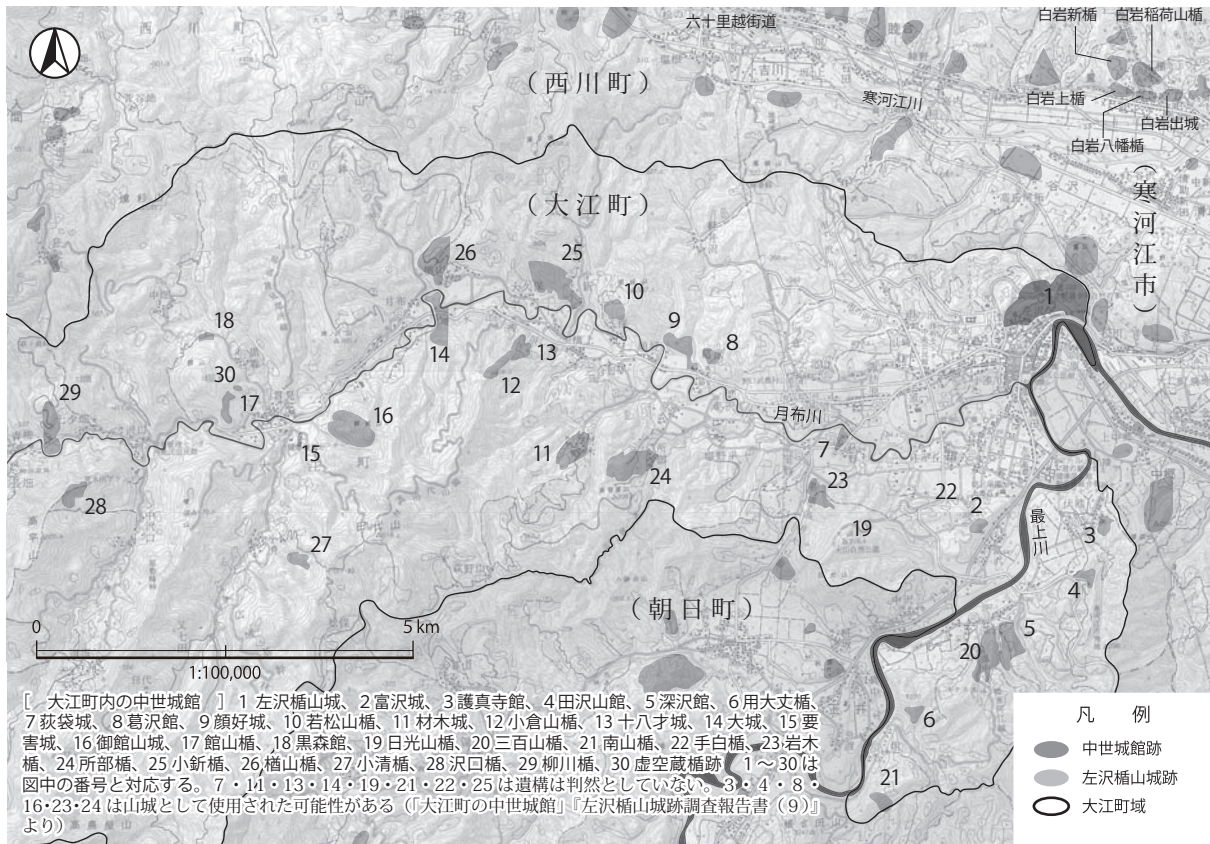
左沢は陸上交通における要衝でもあり、伊達氏や上杉氏が治めていた置賜や大江氏の本拠地があった寒河江などへの往来が左沢で交差する。また左沢の西方、大江町西部には大江氏の家臣の城館が分布していた（第 2 図）。

元和 8 年（1622）に最上氏が改易されると、左沢には庄内藩主酒井忠勝の弟直次を藩主とした左沢藩 1 万 2 千石が成立。小漆川に新しい城の建設が行なわれ、左沢楯山城は廃城となる。直次の死後左沢藩は廃絶し、左沢は幕府領庄内藩預かり地から庄内藩領を経て、松山藩領として幕末を迎えることになる。

ところで、近世左沢には最上川舟運の河岸があった。米沢藩御用商人の西村久左衛門が、元禄年間に最上川の五百川峡谷を開削する。左沢には米沢藩の陣屋「米沢舟屋敷」が置かれ、最上川舟運の中継地として重要な役割を担っていった。左沢楯山城跡が最上川舟運を掌握したことを示す証拠は確認されていないが、城が最上川舟運や非農業的活動も押さえる役割を果たしていた可能性が示唆されている（伊藤 2007）。



第1図 左沢橋山城跡縄張図 (『左沢橋山城跡発掘調査報告書(9)』より転載、史跡指定範囲と地名を加筆)



第2図 左沢周辺の中世城館跡(中世城館の位置・範囲・名称は平成24年3月19日現在の山形県遺跡地図を参照とした)

Ⅲ 八幡座地区山頂部 C1 の調査

1 調査の概要

(1) 経緯

C1 は「八幡座」と呼ばれる場所で、八幡座地区に所在する（第3図）。標高約 222 m で城跡の頂上を占め、面積は約 120㎡と小規模な曲輪である。平成 13 年度に約 44㎡、平成 23 年度には 13 年度の調査範囲を含め 80㎡の調査がおこなわれた。平成 13 年度の調査では 16 世紀の中国の染付碗や 17 世紀の波佐見の香炉などが出土。柱穴が検出され規模や形式は確定しないが小規模な建物跡が認められている。

今回の調査は、史跡の保存と整備のため平成 23 年度に引き続き虎口の地形や関係する施設の有無、曲輪の構造を解明を目標とする。

(2) 方法と経過

調査では、既知点（B5、B4、B5A、B5B）の 4 級相当の基準点を使用した。今年度は昨年度調査区を拡張するように 69.4㎡の発掘を行い、C1 の調査面積は昨年度と併せて 146.4㎡である（第4図）。

表土から人力で掘り下げを行い、遺構の検出は地山である砂質凝灰岩（第7図V層）の上面で行なった。また、建物跡の重複が想定される部分の遺構の形状を確認するため、平成 13 年度に掘った遺構を精査した。成果の記録としては調査区全体のオルソ写真を作成し、座標データを付した遺構図を作成した。なお、C1 の遺構図は、本書に掲載した図を昨年度までに刊行した報告書の図に優先するものとし、C1 調査区の遺構番号は、これまで刊行された報告書の番号を整理した第2表のものを使用する。

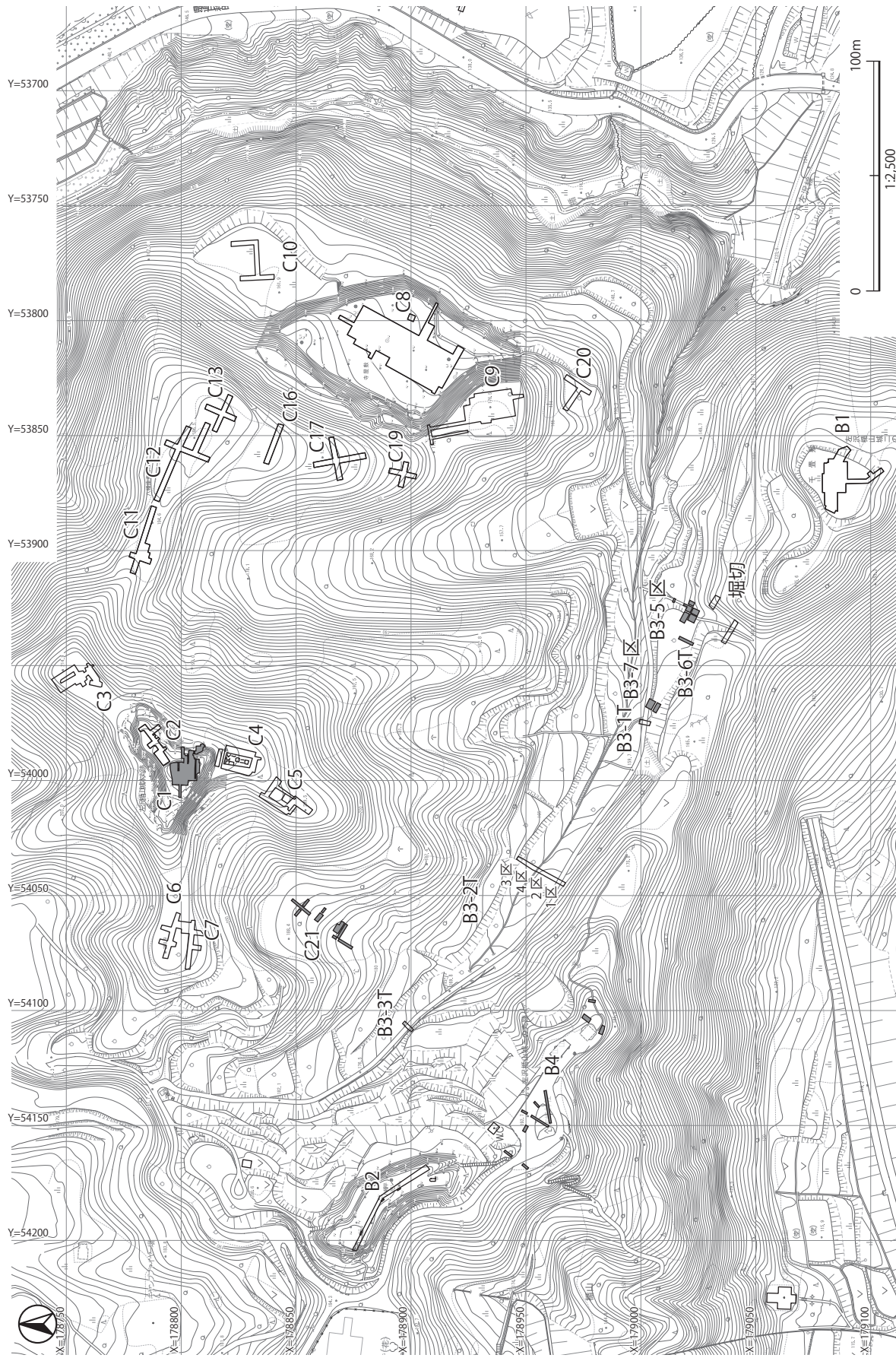
10月2日に史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会を開催、委員の方々から現地でご指導をいただき、10月6日には他の調査区と併せて現地説明会を開催した。その他、役場職員研修の受け入れなどを行った。

今年度調査終了時に遺構部分は山砂で埋め戻し、調査区全体は翌年度旧来の地形について詳細な地形測量をおこなうため、農業用の保温シートとブルーシートで養生して調査を終了した。

調査は平成 24 年 9 月 18 日から 10 月 31 日にかけて、実働 21 日間実施した。経過は以下のとおりである。

調査の経過

9月18日	機材の搬入、昨年度調査区の養生材の除去
9月18日	表土の除去と遺構の検出、遺構の精査と記録
～10月12日	
10月2日	平成 24 年度第 2 回史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会開催、委員による現地指導
10月6日	現地説明会
10月11日	米沢市館山城跡保存会の見学受け入れ
10月12日	オルソ作成のための写真撮影及び座標測量（委託業務）
10月24日～ 29日	土層の記録、写真撮影、オルソの校正
10月25日	大江町役場係長会主催職員研修受け入れ
10月29日	放課後子ども広場自然体験塾見学受け入れ
10月29日～ 31日	遺構の養生



第3图 左沢植山城跡発掘調査区位置図 (1 / 2500)

第2表 遺構番号対応表

平成 24 年度検出 遺構 (遺構番号)	平成 23 年度 報告書 (遺構番号)	2002 報告書	平成 24 年度検出 遺構 (遺構番号)	平成 23 年度 報告書 (遺構番号)	2002 報告書
765	765	P 2	1701		
766	766	P 3	1702		
767	767	P 4	1704		
768	768	P 5	1705		
769	769	P 6	1708		
770	770	P 8	1709		
773	773	P10	1710		
774	774	P11	1711		
775	775	P12	1712		
777	777	P14	1713		
778	778	P15	1714		
1422	1422	P 1	1715		
1423	1423		1717		
1424	1424		1718		
1425	1425		1719		
1426	1426		1720		
1427	1427		1723		
	1429		1724		
	1430		1726		
1431	1431		1727		
	1432		1729		
	1434	番号なし	1730		
1435	1435	番号なし	1731		
1436	1436	P13	1732		
1437	1437	番号なし	1733		
	1438		1734		
1439	1439		1735		
	1440		1736		
1441	1441		1737		
	1442		1739		
1443	1443		1740		
	1444		1741		
	1445		1743		
1446	1446		1745		
1447	1447		1746		
	1449				
	1450	番号なし			
	1451				
1452	1452				
1453	1453				
	1454				
1455	1455	P16			
1456	1456	P17			
1457	1457	P18			
1458	1458	P 7			

八幡座地区八幡座C 1に係る報告書として『左沢楯山城遺跡調査報告書(4)』、『左沢楯山城跡調査報告書(9)』、『左沢楯山城跡調査報告書(12)』の3冊がこれまで刊行されているが、遺構番号は「平成24年度検出遺構」の番号を用いることとする。

2 調査の成果

(1) 概要

建物跡等の柱穴は、地山（第7図、V層）の岩盤上面から検出された。あわせて、おおむね旧来の曲輪の広がりを確認し、曲輪東側では虎口の可能性があるスロープ状の地形や、石を置きながら地形を加工したと考えられる痕跡を検出した。

(2) 遺構

曲輪の平坦面では建物跡2棟と柵または塀とみられる柱穴を検出した。建物跡は柱間220cmのSB1411と、東西の柱間220cm、南北の柱間210cmのSB1750の2棟が、曲輪北部で重複して確認された（第6図）。

曲輪南部では柱間100cmの塀または柵列とみられるSA1751が確認された。あわせて曲輪の端で地形に沿うように、SA1751とほぼ平行なSA1752、南北方向のSA753を検出した。

曲輪東側では、虎口の可能性があるスロープ状の地形を確認した。スロープは曲輪東側の斜面を北から南に向かって斜めに上る形状で、谷側（東側）に沿ってSA1754の柱穴跡が並んでいる。

また、スロープの下部で曲輪の南東に位置する平坦面では、曲輪東側の切岸下端付近で、地形に沿うように一辺10cm～18cm程度の四角形の掘りこみを多数確認した（第5図）。

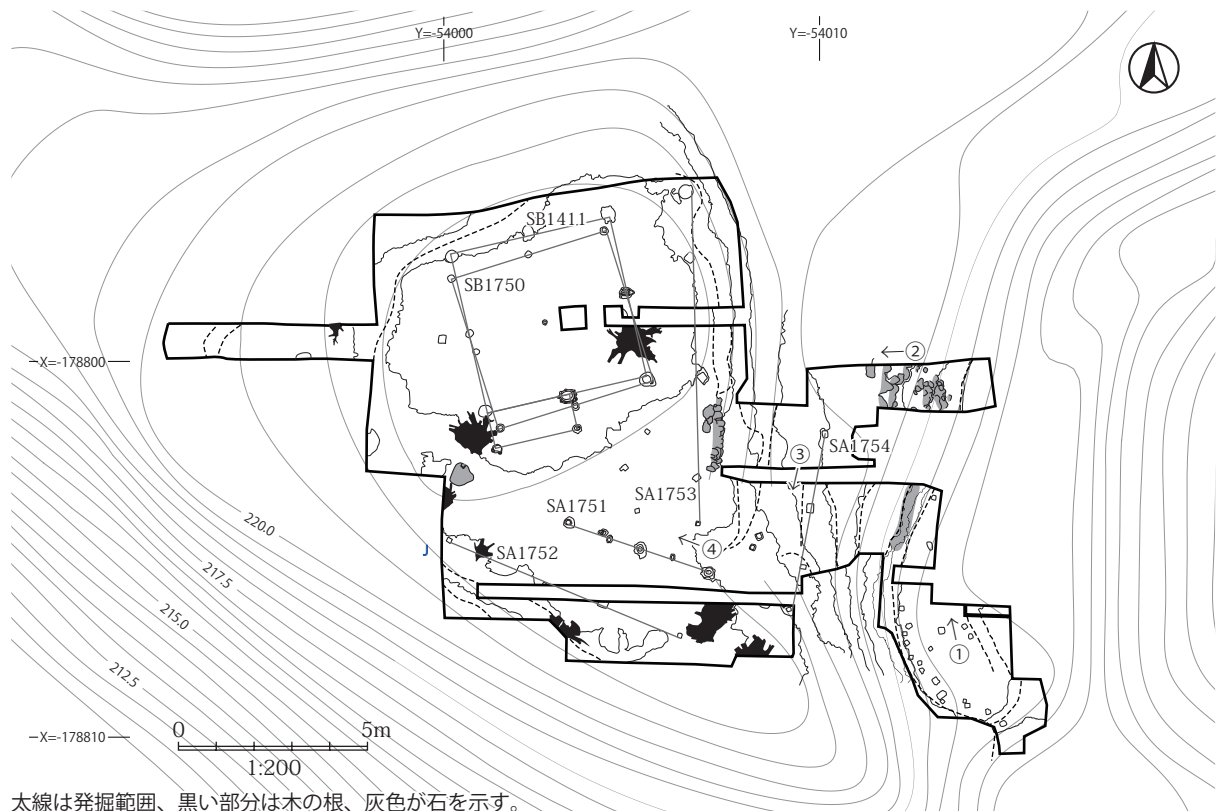
そのほか、曲輪西部でも四角形の掘りこみを検出している。

建物跡を構成する柱穴の掘りこみの形状はSB1411が直径25cm～49cmの円形で、柱穴の周辺部には直径3cm～4cm程度の掘りこみがみられる。SB1750は直径18cm～21cmの円形である。2棟の建物の柱が重複するEB769の形状から、SB750がEB769の南東部分角に柱をすえて建てられて、その後柱穴を大きく掘り直してSB1411が建てられた可能性がある。

他の曲輪上面の構造物では、SA1752及びSA1753の塀または柵列が、曲輪の南と東を囲むように設えられた可能性がある。

また、曲輪へのアプローチは、曲輪東側の虎口状の地形から（第4図）、主殿と推定されるC1「八幡座」南下部の曲輪より、「八幡座」の東側から斜面下部に四角形の掘りこみが分布する平坦面を北に進み（第4図①）、石が張り付けられた斜面部分を西に登る（同②）。そこで向きを変えてSA1754と「八幡座」東側の切岸に挟まれたスロープを南に登って（同③）SA1753の南側で東から西に曲輪へ入る（同④）ルートが考えられる。

今後の課題としては、建物跡の時期や、今回確認した地形に基づいて虎口や曲輪の構造の検討を進める必要がある。



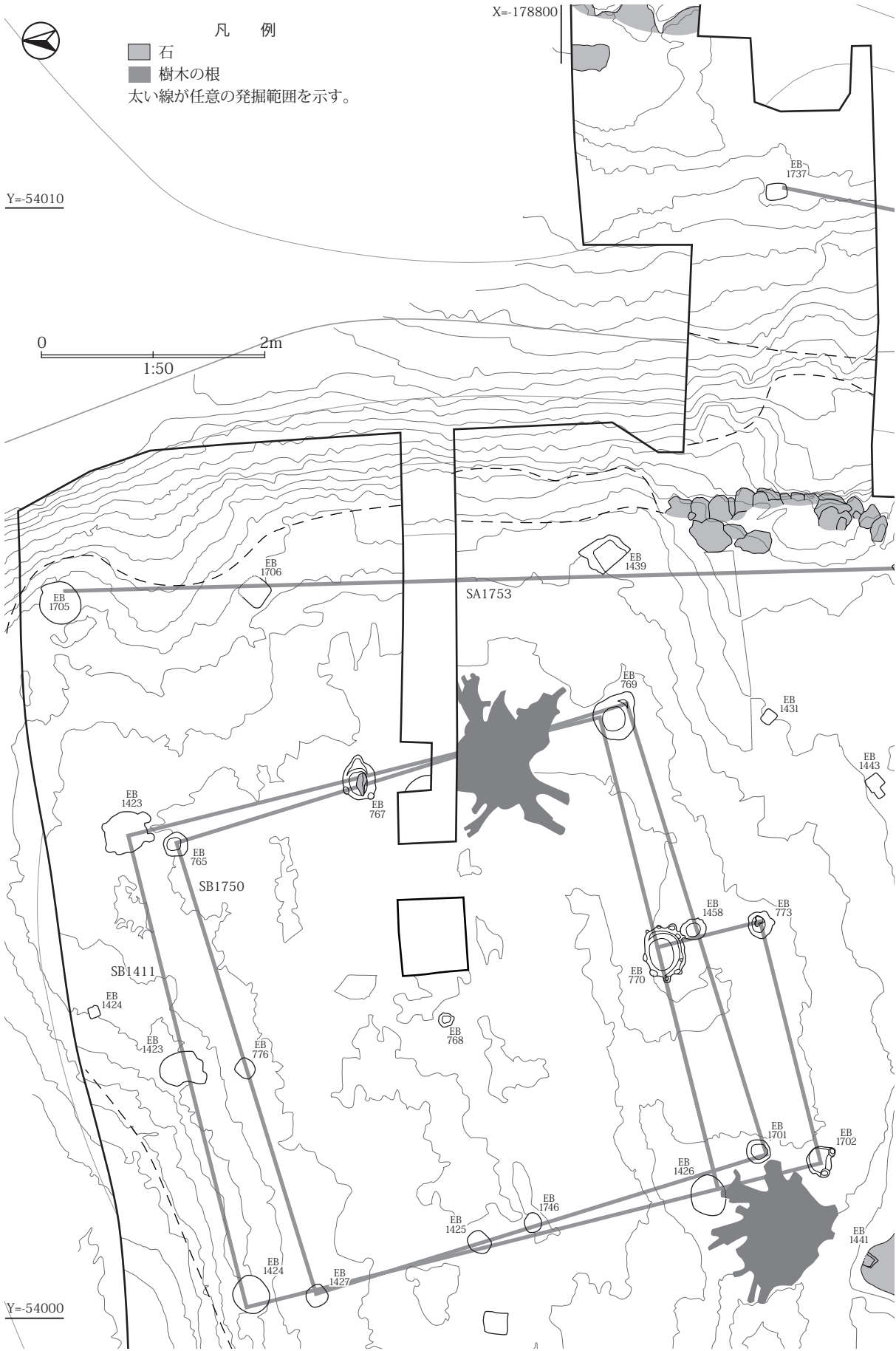
太線は発掘範囲、黒い部分は木の根、灰色が石を示す。

第4図 八幡座地区山頂部C1平面図(1/200)

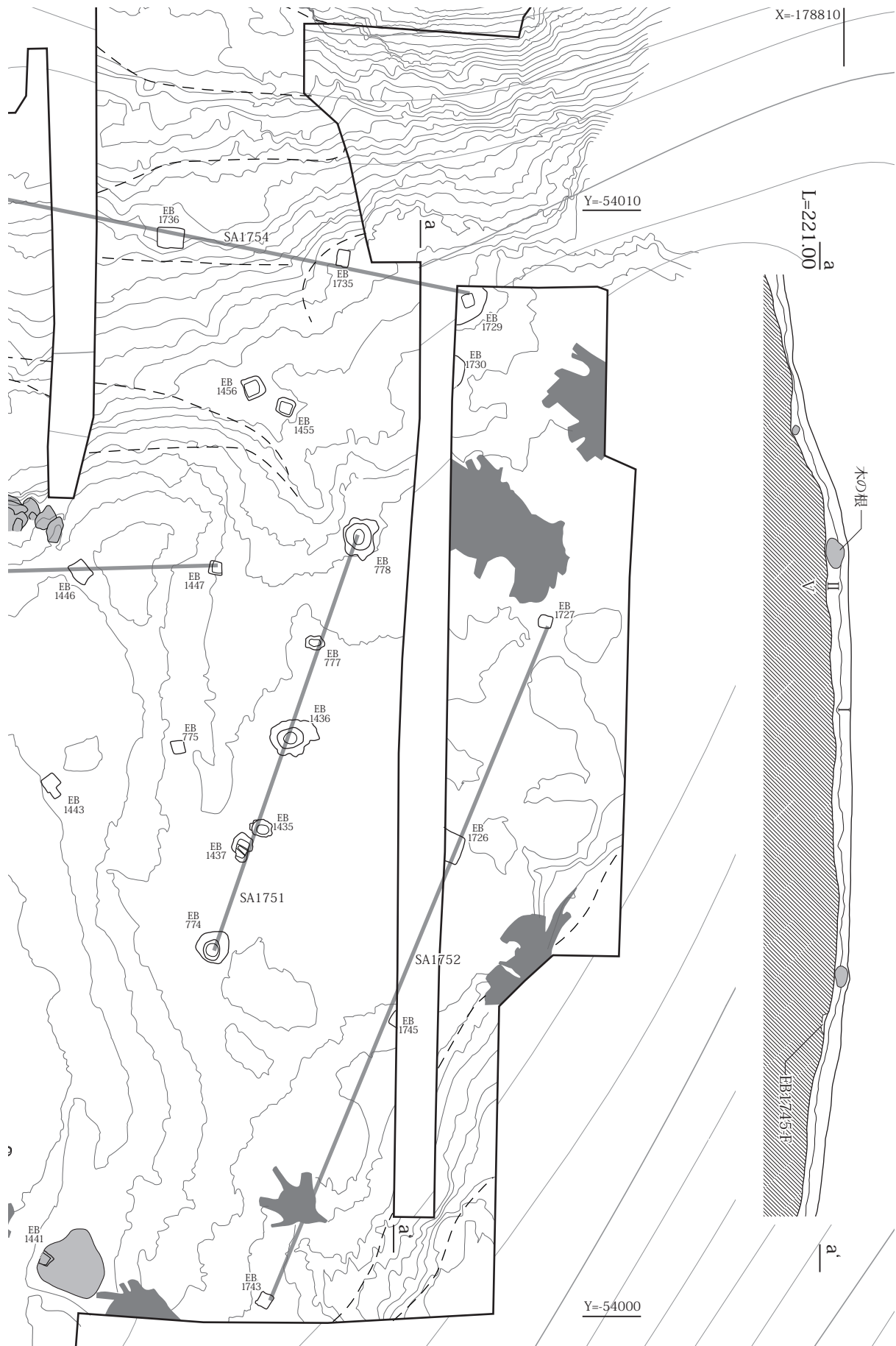


凡例
 ■ 石
 ■ 樹木の根
 太い線が任意の発掘範囲を示す。

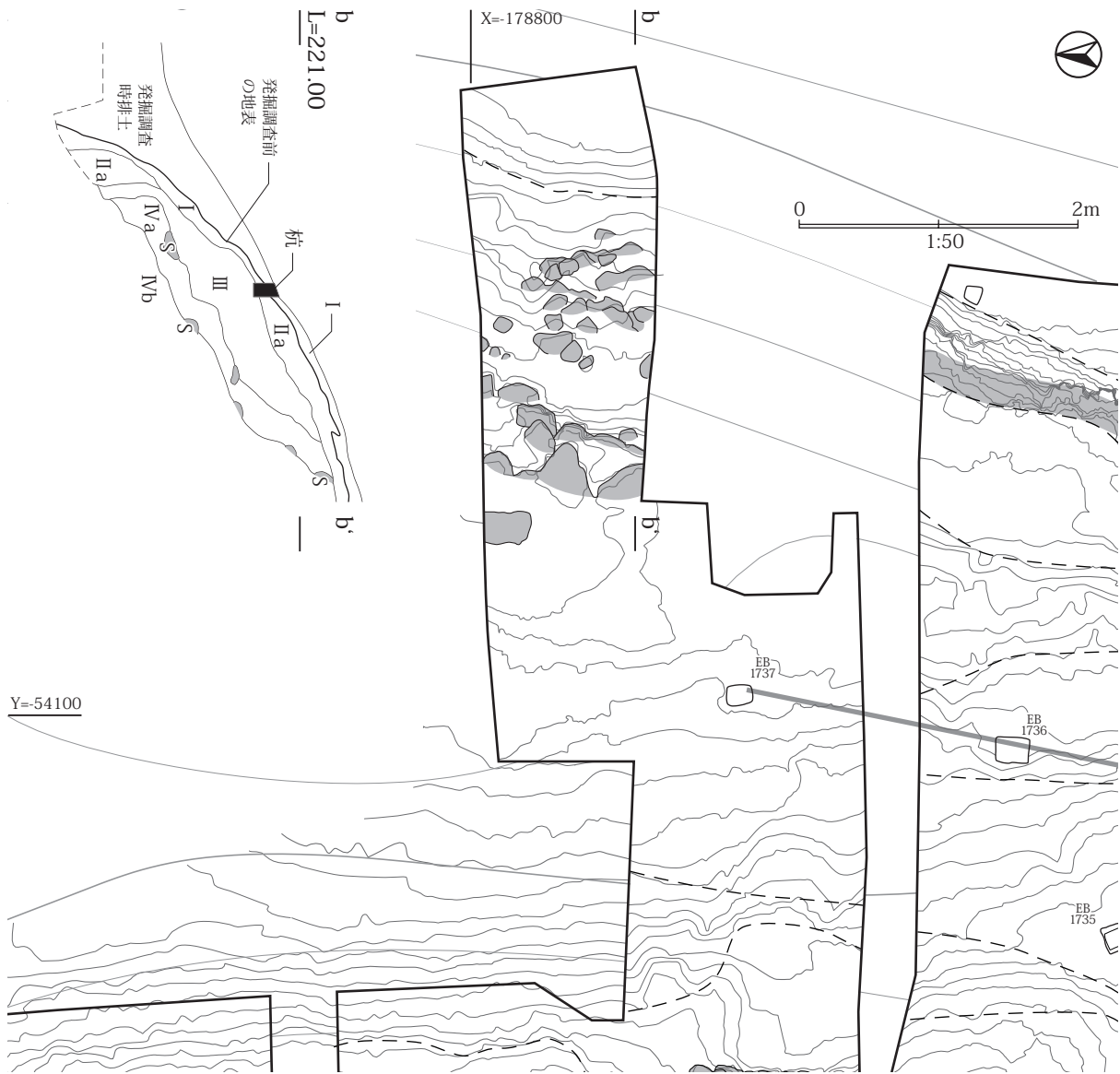
第5図 八幡座地区山頂部C1南東部 遺構平面図(1/50)



第6図 八幡座地区山頂部C 1北部 遺構平面図 (1 / 50)



第7図 八幡座地区山頂部C 1南部 遺構平面図・土層断面図 (1 / 50)



C1 調査区土層注記 (平成24年度発掘調査)

- I 10YR2/2 黒褐色腐植土 (表土)
- II 10YR4/2 灰黄色砂質シルト
- II a 5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト
- III 5Y3/2 オリーブ黒色礫含みシルト
- IV a 5Y6/2 灰オリーブ色礫含みシルト
- IV b 7.5Y7/2 灰白色礫
- V 2.5Y6/4 にぶい黄色 岩盤 (地山)
- EB1745 - F 10YR3/3 暗褐色砂質シルト

凡 例

- 石
- 樹木の根
- 太い線が任意の発掘範囲を示す。

第8図 八幡座地区山頂部C1北東部 遺構平面図・土層断面図 (1 / 50)

IV 八幡座地区谷部 C21 の調査

1 調査の概要

(1) 経緯

C21 は八幡座地区に位置する。山頂「八幡座」(C1) の南西で、標高は約 183m ~ 188m、八幡座との比高差は約 39m ~ 34m である。また、「八幡座」の南で主殿と推定される掘立柱建物跡が見つかった「ゴホンマル」(C4 調査区) は C21 の北東にあたる。「ゴホンマル」が位置する尾根と C6・7 調査区が位置する尾根に挟まれ谷状の地形を呈する場所である(第3図)。

左沢楯山城跡ではこれまで、谷地形部分の発掘調査は行われていない。そのため、散策路の設置など史跡全体の保存整備において谷部分をどのように位置づけるかを検討するため C21 の調査区を設定した。

調査では、谷部で平坦面と斜面が交互に見られる地形が曲輪として造られたものであるのかを確認することや、城に係る地下遺構や遺物の有無の確認を目標とする。

(2) 方法と経過

調査では、既知点から ST24 (X: - 178873.789、Y: - 54076.857、標高: 182.993) と ST25 (X: - 178860.902、Y: - 54052.553、標高: 188.234) 2 点の 4 級相当の基準点を設置して使用した。発掘を行った面積は約 55㎡である。

C21 は南北方向に 2 段の平坦面からなる。C21 北部で標高約 188m 程度の上の段に 1T、4TE・4TW、6TE・6TW のトレンチ、南部で標高約 183m の下の段に 2TN・2TS、3T、5 区のとレンチ及び調査区を設定した(第9図)。

最初に 1T ~ 3T を設定し、3T で検出された河原石が分布する溝の延長を追うために 5 区を設定。併せて南部と北部間の斜面の登り口が想定される場所に 4T、上の段における遺構を確認するための 6T を追加して調査を進めた。調査では表土から人力で掘り下げを進め、遺構に係るサブトレンチを設定した。

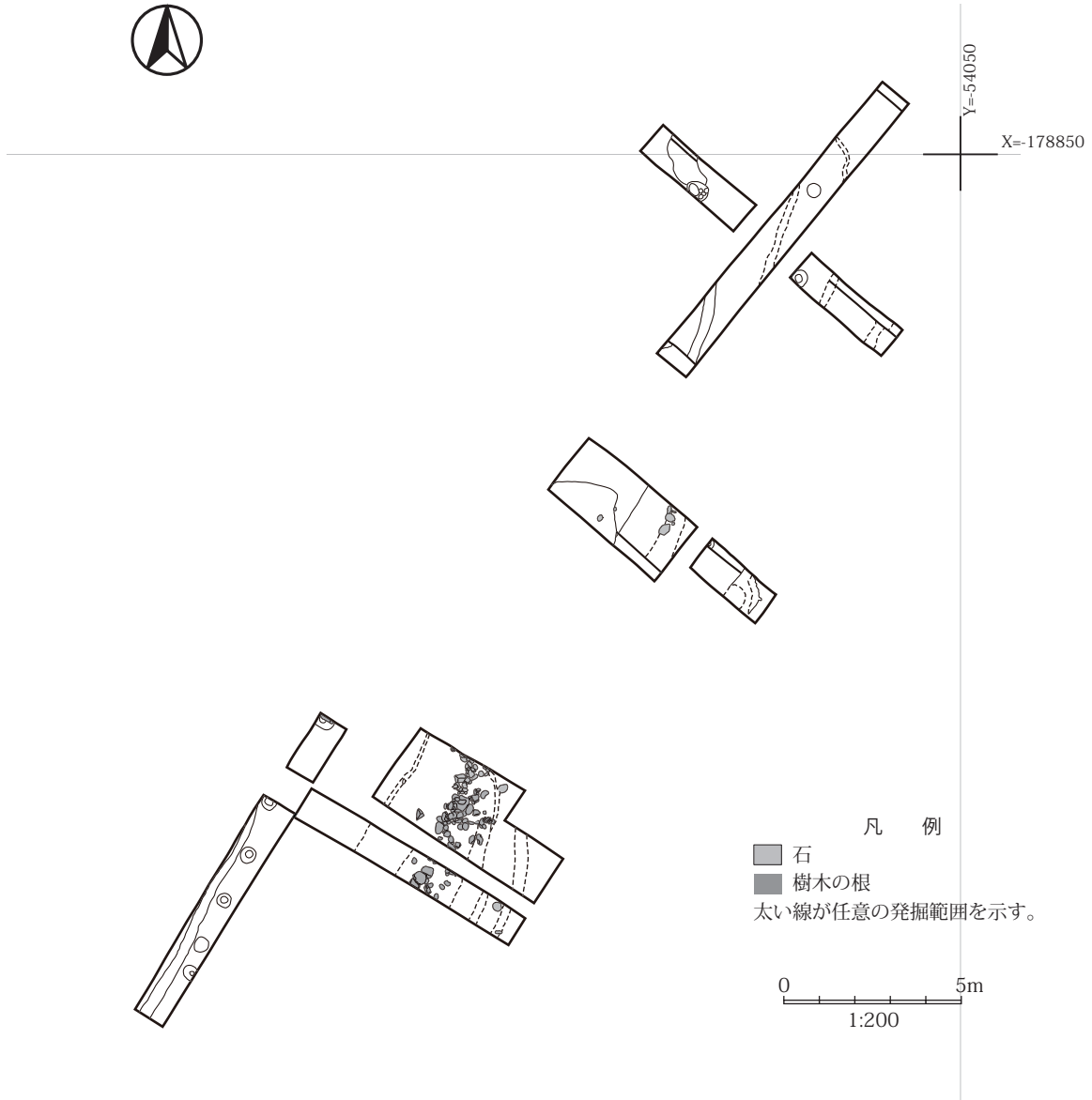
8月29日に山形県及び米沢市・尾花沢市・寒河江市埋蔵文化財担当者から現地で指導と助言をいただくとともに、10月2日に史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会を開催、委員の方々から現地でご指導をいただいた。

記録作成後、放射性炭素年代測定を行うため炭化物等の資料を採取し、翌年度継続した調査を行うため、農業用の保温シートとブルーシートで養生して調査を終了した。

調査は平成 24 年 8 月 1 日から 10 月 31 日にかけて、実働 24 日間実施した。経過は以下のとおりである。

調査の経過

8月1日	鍬入れ式、機材の搬入、調査区の設定
8月1日~9月13日	表土の除去と遺構の検出、遺構の精査と記録
8月29日	山形県及び他市町担当者から現地で指導と助言をいただく
10月2日	平成 24 年度第 2 回史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会開催、委員による現地指導
10月6日	現地説明会
10月11日~24日	土層の記録と溝跡一部の掘り下げ、オルソの校正、写真撮影
10月30日	放射性炭素年代測定資料採取、遺構の養生



第9図 八幡座地区谷部 C21 トレンチ・調査区配置図 (1 / 200)

2 調査の成果

(1) 概要

八幡座地区谷部 C21 では、上の段に設定した 1T、6TW・6TE、4TW・4TE と、下の段に設定した 2TN・2TS、3T、5 区で基本層序が異なっている。

上の段は北東から南西に向かって下がるように傾斜している（第 12 図）。遺構はⅢ層上面で検出しており、Ⅲ層より上部の堆積は北東部が南西部に比べやや厚い。また、上の段の南端、登り口が想定されるあたりに設定した 4TW では、炭化粒を含む整地層が確認された。

下の段も北東から南西に下がるように傾斜している（第 10 図）。遺構はⅡ層上面、Ⅱ層下面、Ⅳ層上面で確認された。2TE・2TS の断面では、Ⅰ～Ⅲ層は北東部が厚く南西に向かって薄くなるように堆積しており、Ⅳ層上面はやや南西が低いものの現在の地形より水平に近い様子がうかがえる。

(2) 遺構

上段のトレンチでは、柱穴や溝跡、Ⅱ層を円形または不定形に掘りこんだ跡などを検出した。

6TW の SX1537 では焼けて赤く固い土がⅡ層を掘りこんだ遺構を埋めており、それと連結するように不定形にⅡ層を掘りこむ SX1536 では、覆土に炭化粒が含まれている。SX1536 の掘りこみの深さは約 30cm である（第 12 図）。

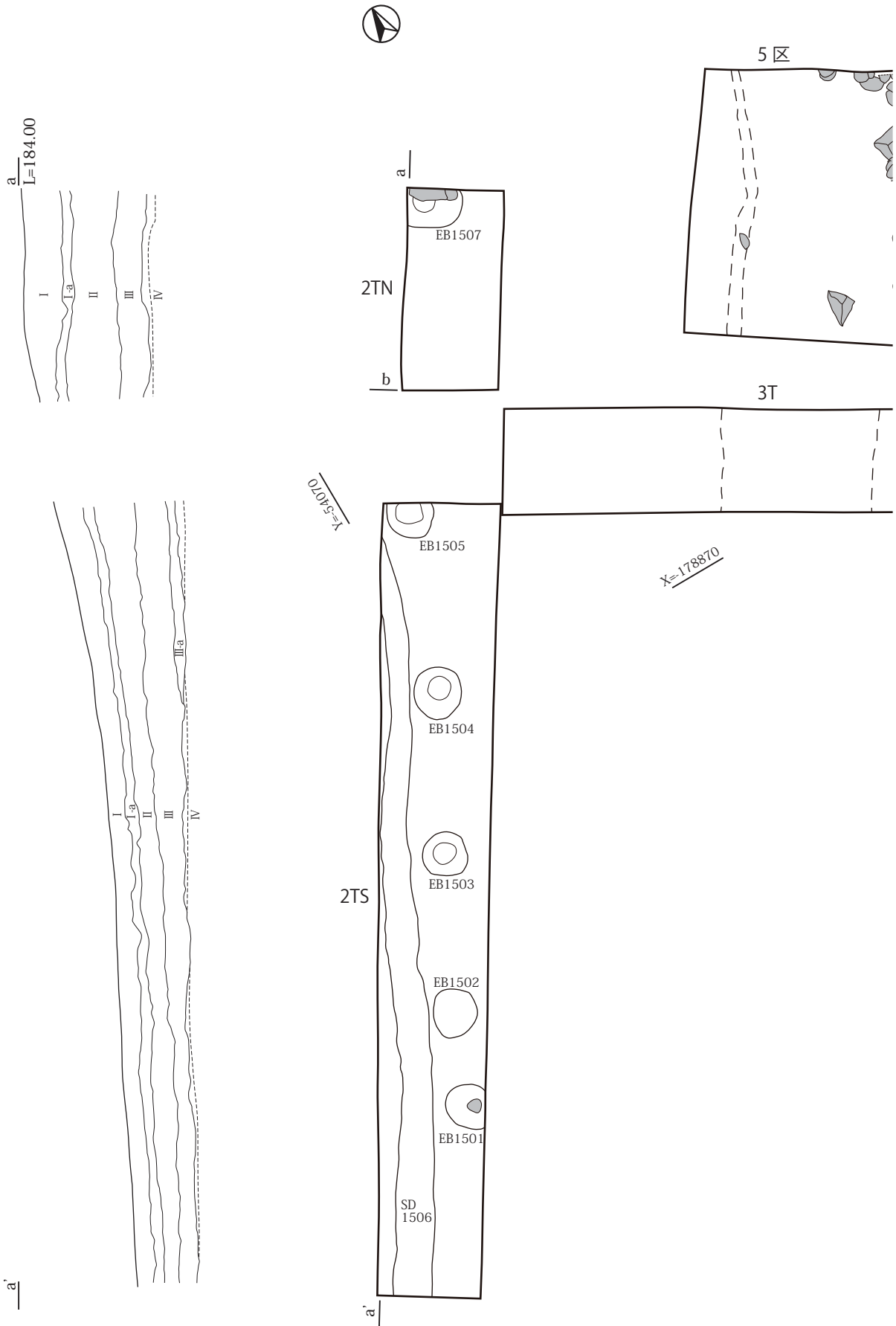
4TW では A 層下に整地層③が確認され、それを掘りこむように南北方向の溝跡 SD1542 が確認された。整地層は固くしまつて岩盤の礫や炭化粒が含まれている。なお、4TW 東に位置する 4TE でも④層の上で熱を受けた黒く固い土が分布している。

下の段のトレンチでは、Ⅱ層上面とⅡ層下面で溝跡、Ⅳ層上面で柱穴跡と溝跡を検出した。

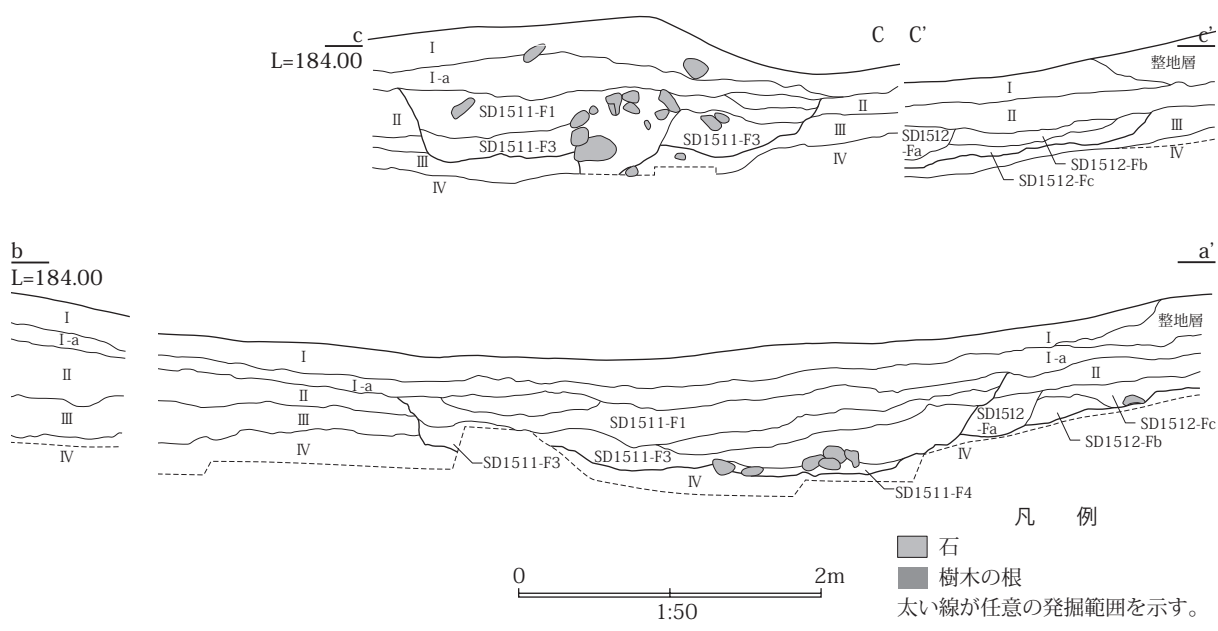
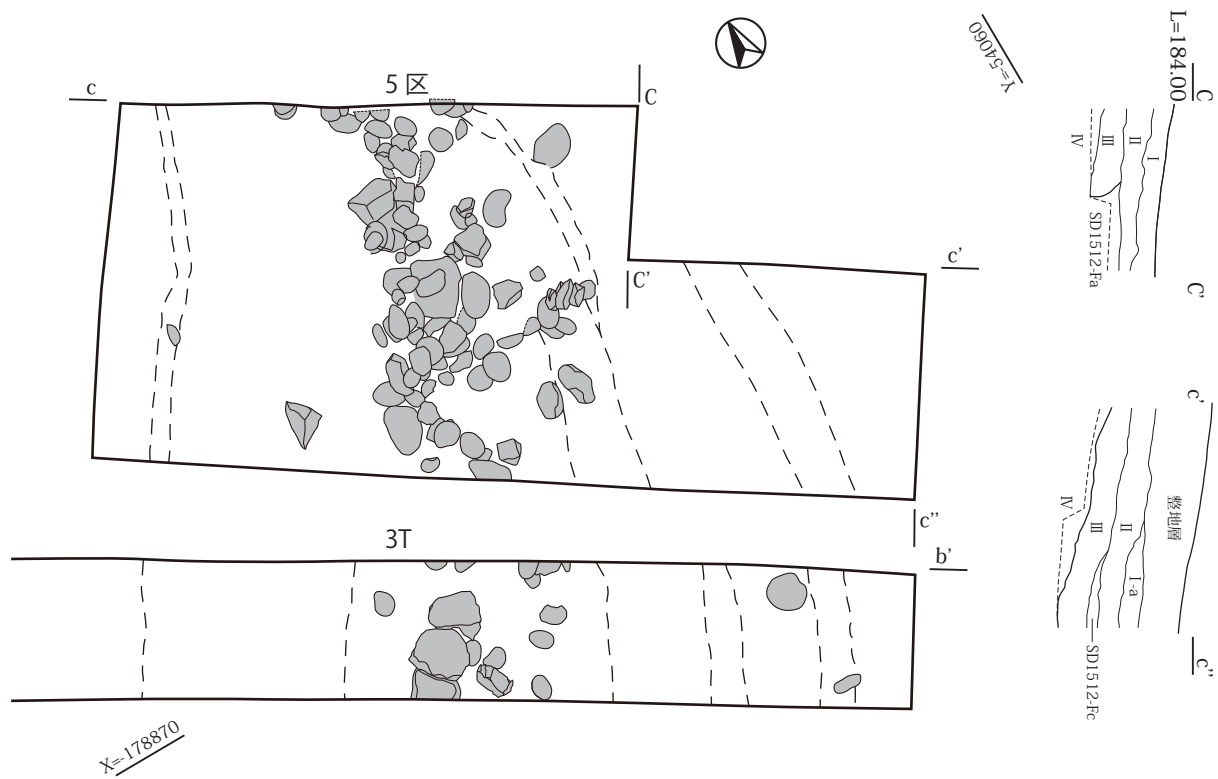
溝跡は下段中央付近の 3T 及び 5 区で確認した。Ⅱ層上面で検出した溝 SD1511 は北東—南西の方向で、溝上部の幅が 280cm～400cm 程度である。溝跡の一番深い部分では溝と同じ方向に石が並んでいる（第 11 図）。石の多くは河原石であるが、一部地山の凝灰岩が混ざっており、熱を受けて赤黒くなった石が含まれている。Ⅱ層下面で確認した溝 SD1512 は溝 SD1511 に切られている。

溝跡の西側にあたる 2TE・2TS では、掘りこみの直径が 40cm～45cm 程度の柱穴を検出し、一部で柱のあたりとみられる円形の土色変化を確認した。これらの柱穴跡及び SD1506 の溝跡はいずれもⅣ層上面で検出している。

本調査区では上の段と下の段の土層や溝跡の関係や各遺構の性格・時代の検討が課題であり、これらの検討を進めるには、主な遺構の広がりやを考慮して調査区を拡張する必要がある。



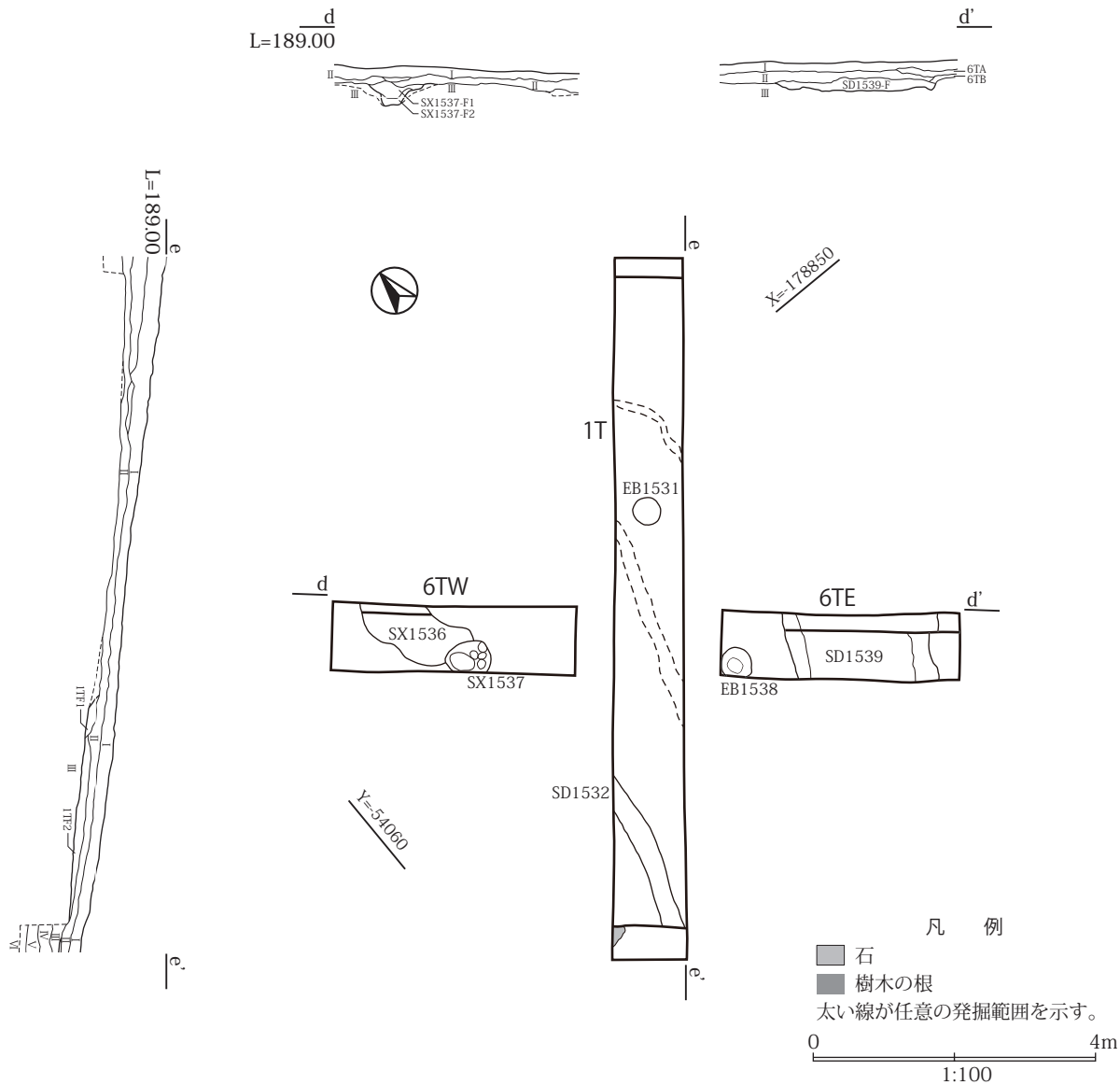
第 10 図 八幡座地区谷部 C21 2TN・2TS 遺構平面図・土層断面図 (1 / 50)



- C21 (2TN・2TS、3T、5区) 調査区土層注記
- I 10YR4/6 褐色シルト (表土)
 - 整地層 2.5Y4/3 オリーブ褐色 微砂質砂
 - I a 10YR4/4 褐色シルト
 - II 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
 - III 10YR5/4 にぶい黄褐色微砂質砂
 - III a 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
 - IV 2.5Y5/6 黄褐色 礫含微砂質砂

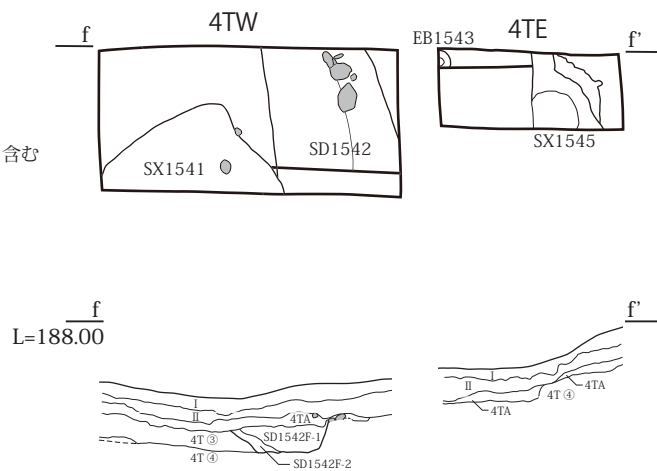
- EB1505-F 10YR5/6 黄褐色微砂質砂
- SD1506-F 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質砂、小礫含
- SD1511-F1 10YR3/3 暗褐色シルト
- SD1511-F2 10YR4/4 褐色砂質シルト
- SD1511-F3 2.5Y4/4 オリーブ褐色微砂質砂
- SD1511-F4 2.5Y4/4 オリーブ褐色微砂質砂細礫含
- SD1512-Fa・Fb 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
- SD1512-Fc 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト

第 11 図 八幡座地区谷部 C21 3T・5区遺構平面図・土層断面図 (1 / 50)



C 21 (1T・4TE・4TW・6TE・6TW) 調査区 土層注記

- I 10YR4/6 褐色シルト (表土)
- 6TA 10YR6/6 明黄褐色シルト
- II 10YR4/3 にぶい黄褐色
- 4TA 10YR5/8 黄褐色微礫含む砂
- 6TB 10YR4/6 褐色シルト 5mm 前後礫含む
- 4T③ 10YR5/4 にぶい黄褐色微砂質砂炭化物、2cm 前後礫多く含む
- 4T④ 10YR7/6 明黄褐色礫含み微砂
- 1TF1 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 1TF2 10YR4/4 褐色細礫含み砂
- III 10YR5/4 にぶい黄褐色 5mm 前後礫含む砂質シルト
- IV 10YR5/4 にぶい黄褐色礫含みシルト
- V 10YR5/6 黄褐色細礫含み砂
- SX1536-F1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト炭化粒を含む
- SX1536-F2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト細礫含む
- SD1539-F 10YR4/4 褐色微砂質砂、炭化粒を含む
- SD1542-F1 10YR4/4 黄褐色礫含み砂
- SD1542-F2 10YR4/4 褐色細礫含みシルト、炭化物・炭を含む



第 12 図 八幡座地区谷部 C21 1T・4TE・4TW・6TE・6TW 遺構平面図・土層断面図 (1 / 100)

(3) 遺物

これまでの出土遺物は① 12～13世紀、② 15世紀後半～17世紀、③ 18世紀以降に大別されている。②は史料による築城期（14世紀後半）の遺物がなく、廃城時期よりやや新しい遺物が含まれるものの、城が機能した時代の遺物とみられている（上田 2008）。

本調査区では 15 点の陶磁器と複数の剥片が出土した。

C21 の下段にあたる 2T・3T・5 区では、3T と 5 区の溝跡 SD1511 付近及び SD1511 の覆土（第 11 図 SD1511-F1）から 16 世紀越前の大甕や 16 世紀の瀬戸大窯の丸碗などが出土した。

C21 の上段にあたる 1T・4T・6T では、4TW の整地層（第 12 図 A 層・③層）から 16 世紀越前の壺の破片 3 点が出土した。4TW の整地層は 2T 等を設定した下段からの登り口が想定される場所にあたる。

また、II 層からは 16 世紀末の瀬戸美濃の天目や明代（15 世紀ころ）の龍泉窯の青磁香炉が出土した。他に貿易陶磁器では SD1542F-1 から 16 世紀前半、景德鎮とみられる磁器片が出土している。

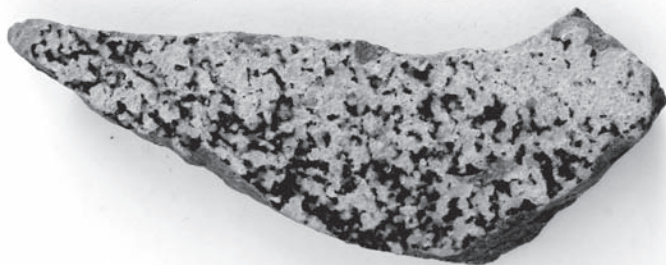
出土点数は少ないが、これらは前出の区分では②に該当し、城と関わる遺物の可能性がある。



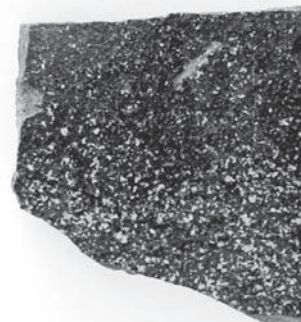
No.762 (16c、越前／3T 1a 層下)



No.761 (16c、瀬戸大窯丸碗／3T SD1511F-1)



No.768 (16c、越前／3T SD1511F-1)



No.769 (16c、越前／5区 SD1511F-1)

第 13 図 八幡座地区谷部 C21 出土遺物 1

(写真は実物の 80%の大きさ、遺物実測図等は第 1 期保存整備のための調査成果をまとめた総括報告書で報告を予定する)



No751 (16c 末、瀬戸美濃 天目 / 1T II層)



No.752 (15c、龍泉窯 青磁香炉 / 1T II層)



No765 (16c、越前 壺 / 4TW A層)



No.764 (16c 前半、景德鎮 / 4TW SD1542-F1)



No766 (16c、越前 壺 / 4TW ③層)

第 14 図 八幡座地区谷部 C21 出土遺物 2

(写真は実物の 80%の大きさ、遺物実測図等は第 1 期保存整備のための調査成果をまとめた総括報告書で報告を予定する)

V 千畳敷地区堀切周辺 B3 の調査

1 調査の概要

(1) 経緯

B3 は城跡を南北に分ける蛇沢周辺の調査区で、蛇沢地区から千畳敷地区に位置する。平成 23 年度から調査を行っており、今年度は昨年度の成果を踏まえつつ堀切周辺（千畳敷地区）に調査区を設けた（第 3 図）。

平成 23 年度は、沢と並行する私道部分について旧来の地形や道の確認を目標に、沢と直交する方向のトレンチ 3 本を設定して 62㎡の調査を実施した。今年度は布堀状の遺構と平坦面が確認された 1T（B3）の東側で遺構の続きを確認するために 7 区、最上川から城内へ至る道が通っていたと指摘されている堀切周辺に 5 区、7 区と 5 区間の平坦面に 6T を設定。城道や旧来の地形確認を目標とした調査を行った。

(2) 方法と経過

調査では、平成 23 年度に設けた 4 級相当の基準点を使用した（「第 4 表 蛇沢地区設置 4 級基準点座標」『左沢楯山城跡調査報告書（12）』参照）。今年度は 66㎡の発掘を行っており、B3 の調査面積は昨年度と併せて 128㎡である。

5 区は調査面積約 39㎡で、堀切部分の地形を確認するため 5 区 SW、5 区 SE、5 区 NW、5 区 NE1、5 区 NE2 の各調査区を面的に設定し、南北方向溝跡の延長上に 5TP を追加（第 15 図）。各調査区の壁に沿ってサブトレンチを設定して溝跡の土層の確認を行った。

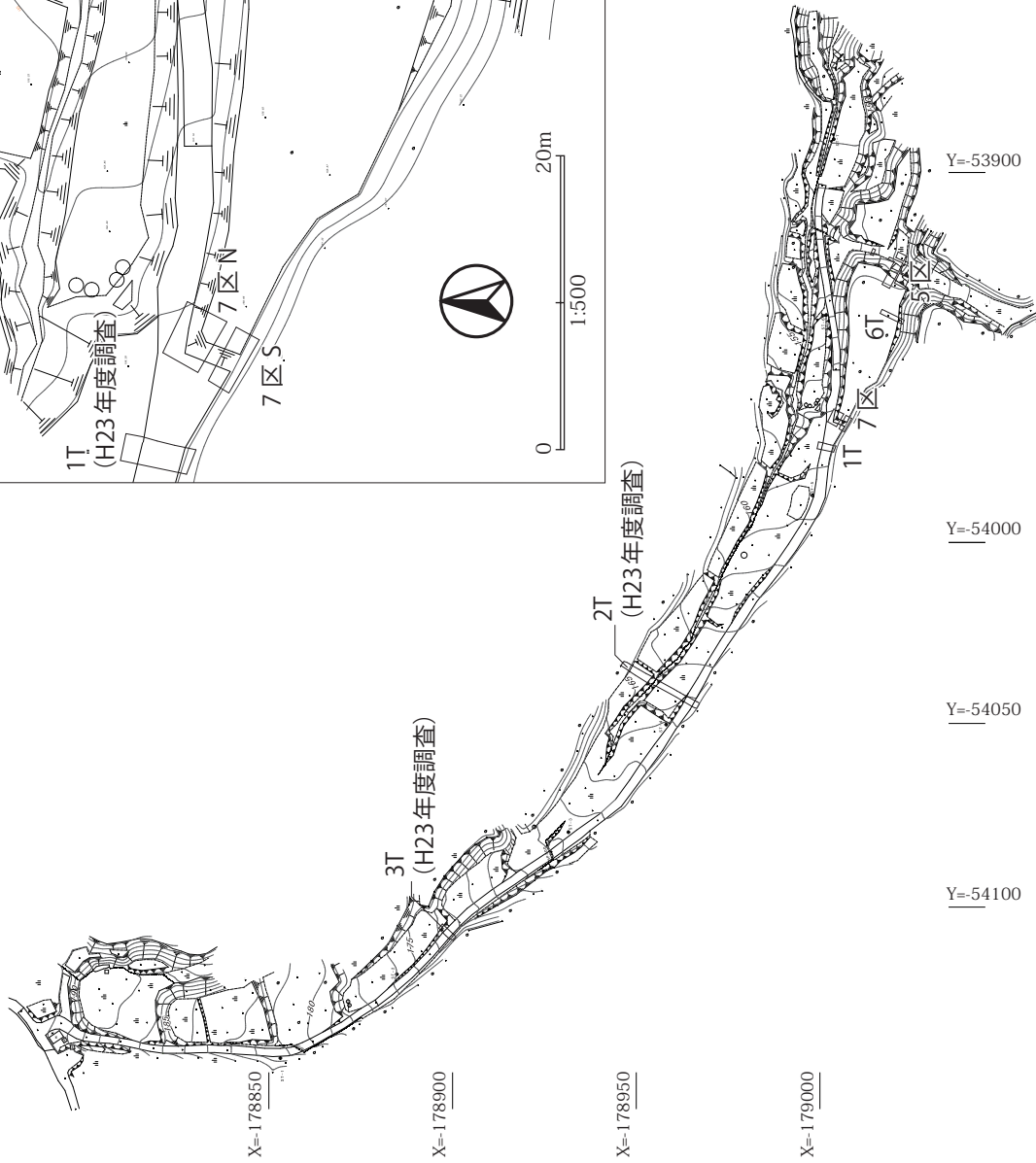
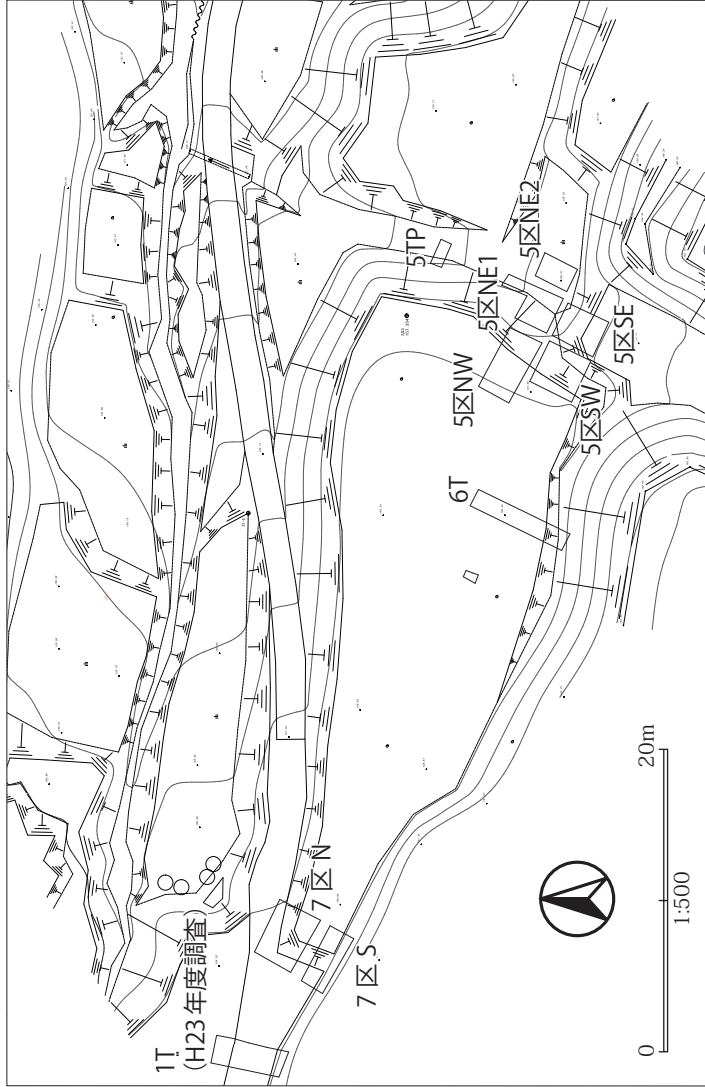
7 区は面積約 20㎡。平成 23 年度に 1T で検出した布堀状の SD1401 と平坦面が、南側の尾根に位置する曲輪状の地形から延びるスロープにつながるかを確認するため 7 区 N と 7 区 S を設定した。6T は面積約 7㎡で、前記の曲輪状の地形部分に設定した。

他調査区と同様に、8 月 29 日に山形県及び県内他市町担当者からの助言と 10 月 2 日に史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会委員からの指導をいただき、10 月 6 日には現地説明会を実施。記録作成後に埋め戻しを行って調査を終了した。

調査は平成 24 年 9 月 18 日から 10 月 31 日にかけて、実働 20 日間実施した。経過は以下のとおりである。

調査の経過

8月24日	機材の搬入、調査区の設定と人力による試掘
8月27日、9月3日	重機による表土の除去
8月28日	遺構の検出、精査と記録
～9月18日	
8月29日	山形県及び他市町担当者から現地で指導と助言をいただく
10月2日	平成 24 年度第 2 回史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会開催、委員による現地指導
10月6日	現地説明会
10月15日	オルソ作成のための写真撮影及び座標測量（委託業務）
10月24日～26日	土層の記録、オルソの校正
10月29日～31日	重機による埋め戻し



第 15 図 蛇沢周辺の地形 (1 / 2000) 及び千畳敷地区堀切周辺 B 3 調査区配置図 (1 / 500)

2 調査の成果

(1) 概要

5区では現況の地形と同方向の溝跡を確認した。6Tでは2回以上整地したことがうかがえる土層を確認し、7区ではスロープ状に地形を造成した痕跡を検出した。

(2) 遺構

5区は現況の地形から堀切跡と考えられている地形の下で、溝跡SD1650を確認した(第15・16図)。SD1650は北東―南西方向に延び、溝の幅は今回確認した部分の上部で約4.5m程度、下部で約1.2m程度である。溝は地山の岩盤(Ⅷ層)または岩盤上の固くしまった土(Ⅶ層)を掘りこんでおり、溝の底では一段低くV字に掘りこまれた部分があって、粒子の細かい土で埋められている。

また、5区南側で溝の延長上に設けた5TPでもSD1650の延長とみられる溝を確認したが、溝の底の西側で溝と平行するようなV字状の掘りこみを確認した。

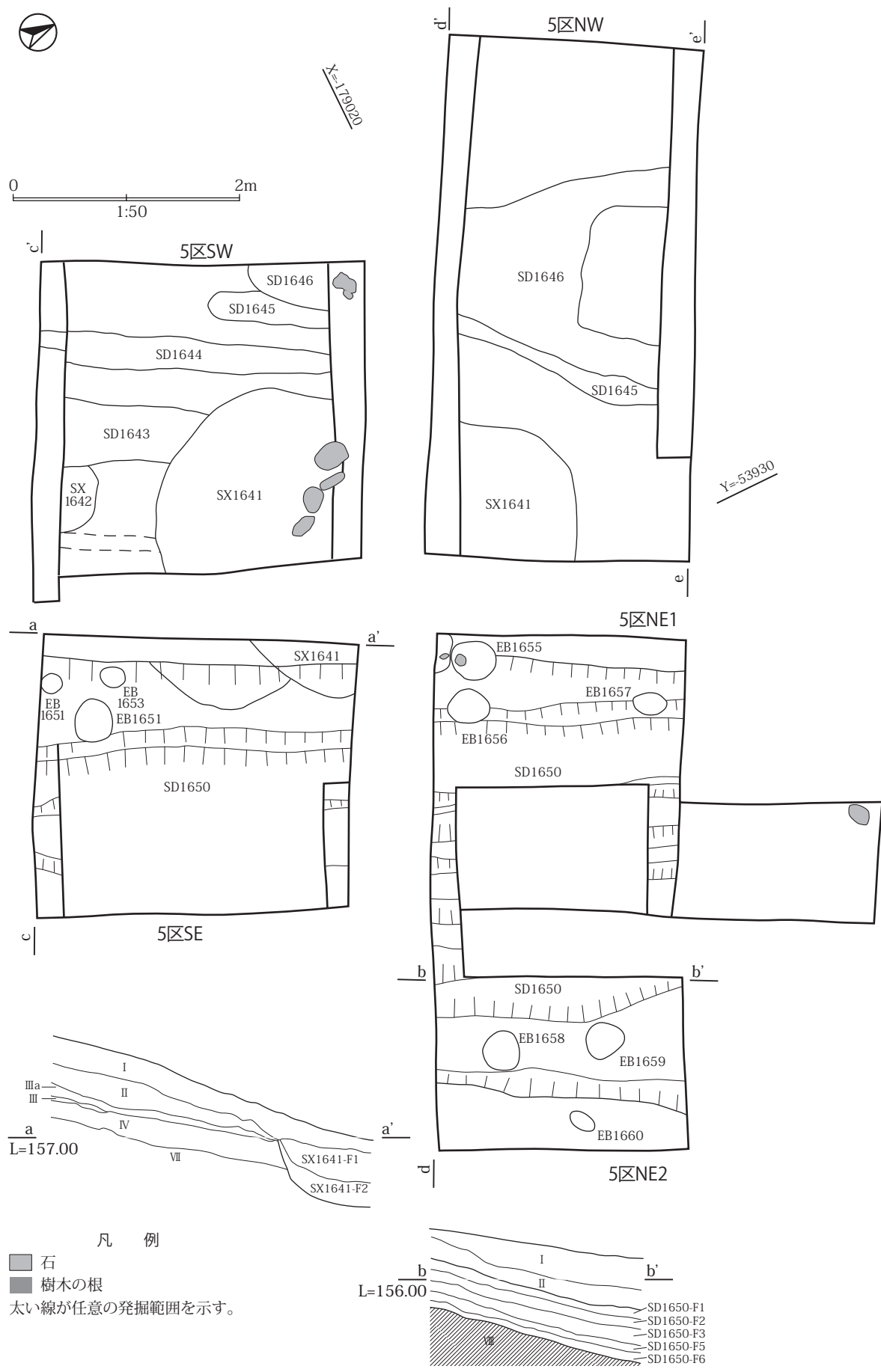
なお、溝跡SD1650の西側では、SD1650に比して細く浅い溝を幾条か確認したが、これらの性格は不明である。

6Tでは複数回にわたる整地の跡が確認された。現在の表土Ⅰ層の下部に客土のⅡ層がみられ、その下部にはそれ以前の表土とみられるⅢ層が堆積している(第18図)。さらにその下部に整地層のⅣ層、その下にそれ以前の表土とみられるⅤ層が位置する。Ⅴ層の下は地山である岩盤層である。遺構はⅣ層を掘りこむ柱穴跡と土坑跡、Ⅷ層を円形に掘りこむ柱穴跡、調査区南側の斜面下端に沿ってⅢ層を掘りこむ溝跡を確認した。

7区ではスロープ状の地形が造成されたものであることを確認した。スロープ状の地形は固くしまったⅣ層により構成されており、その下部には古い表土とみられるⅤ層が堆積する(第19図)。スロープ部分ではⅣ層の下部に地山の岩盤Ⅷ層も確認している。

また、7区Ⅳ層上面で柱穴跡とみられる円形の掘りこみを検出した。柱穴跡はスロープ上でおおよそ2列、スロープの谷側斜面の上部で1列の分布を確認している。

5区の溝跡は堀切として造られたことが考えられるが、以前から指摘されている掘底道としての使用状況や溝の底にあるV字状の掘りこみの性格等について検討が必要である。また、6Tと7区については整地や造成の時期が分からないため、今後の検討課題である。



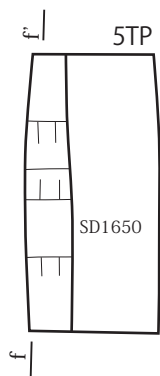
第16図 千畳敷地区堀切周辺B 3 5区南部 遺構平面図・土層断面図 (1/50)

B3 (5区・5TP) 調査区 土層注記

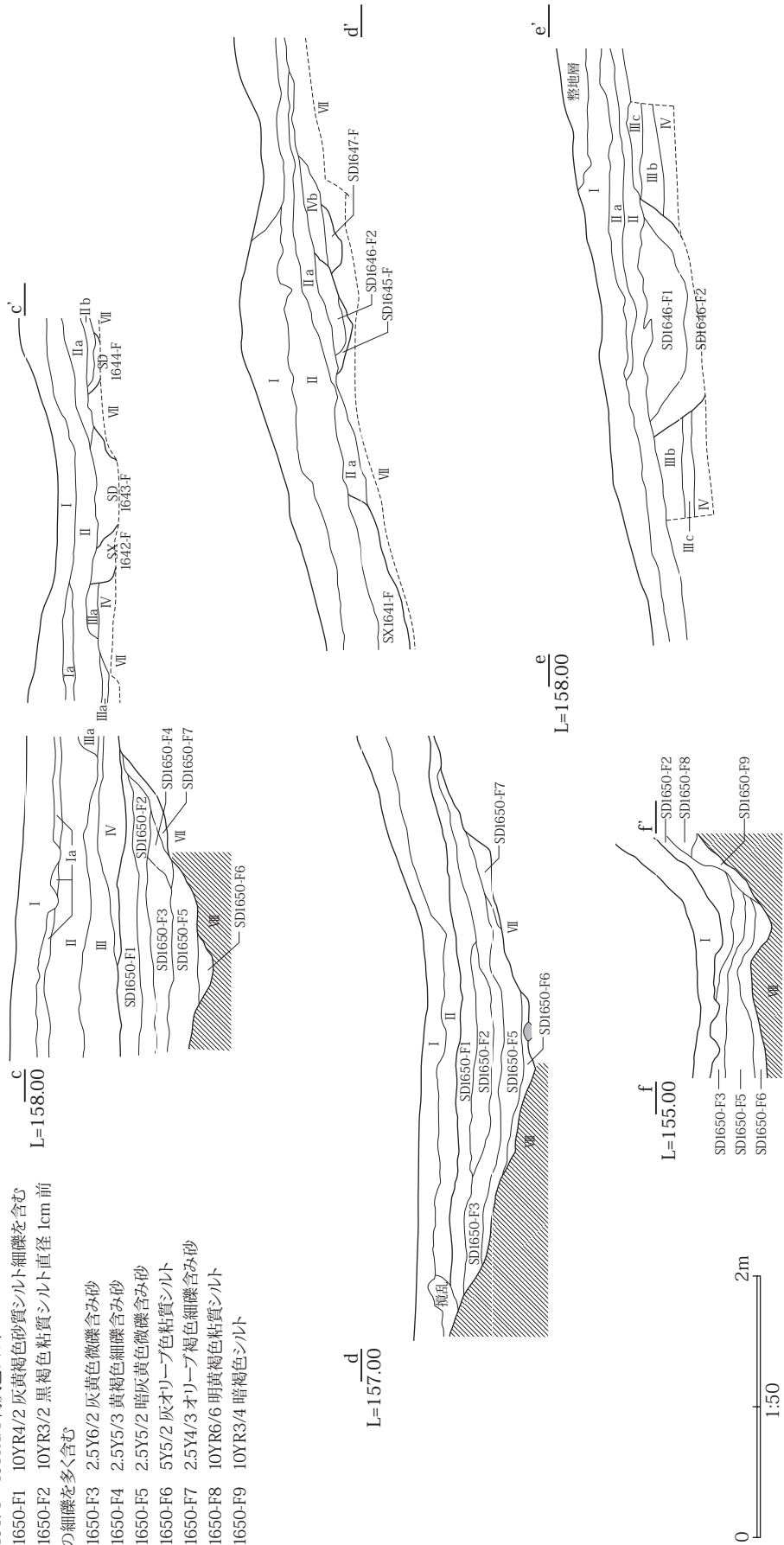
- SDI641-F1 10YR4/3 にぶい 黄褐色砂質シルト
- SX1641-F2 10YR3/3 暗褐色
- SX1642-F 10YR4/4 褐色砂質シルト
- SDI643-F 10YR2/1 黒色粘質シルト
- SDI644-F 10YR5/3 にぶい 黄褐色粘質シルト
- SX1642-F 10YR4/4 褐色砂質シルト
- SDI645-F 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
- SDI646-F1 10YR7/4 にぶい 黄褐色風化礫
- SDI646-F2 10YR3/2 黒褐色シルト
- SDI647-F 10YR4/1 褐灰色シルト
- SDI650-F1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 細礫を含む
- SDI650-F2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 直径 1cm 前後の細礫を多く含む
- SDI650-F3 2.5Y6/2 灰黄色微礫含み砂
- SDI650-F4 2.5Y5/3 黄褐色細礫含み砂
- SDI650-F5 2.5Y5/2 暗灰黄色微礫含み砂
- SDI650-F6 5Y5/2 灰オリーブ褐色粘質シルト
- SDI650-F7 2.5Y4/3 オリーブ褐色細礫含み砂
- SDI650-F8 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
- SDI650-F9 10YR3/4 暗褐色シルト

B3 (5区・5TP) 調査区 土層注記

- 整地層 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
- I 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
- I a 10YR4/4 褐色粘質シルト
- II 10YR3/3 暗褐色シルト 1cm 前後の細礫を含む
- II a 10YR3/4 暗褐色細礫含みシルト
- II b 7.5Y5/2 灰オリーブ色細礫層
- III a 10YR5/4 にぶい 黄褐色粘質シルト 1cm 前後の細礫含む
- III 10YR5/3 にぶい 黄褐色細礫含み砂
- III c 10YR5/2 灰褐色シルト
- IV 10YR4/3 にぶい 黄褐色砂質シルト
- IV b 10YR5/4 にぶい 黄褐色砂質シルト
- VII 10YR6/6 明黄褐色細礫含み砂
- VIII 2.5Y4/3 ~ 2.5Y6/3 灰黄色からにぶい 黄色礫 (地山)

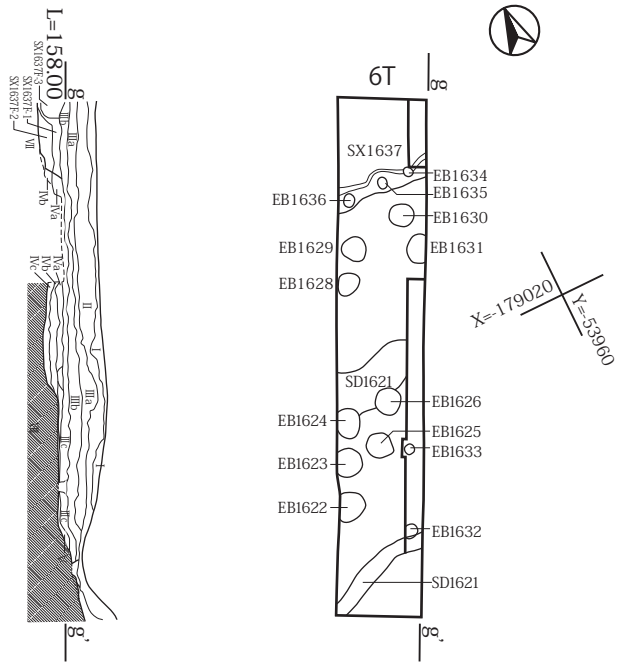
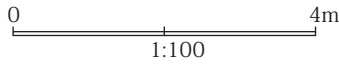


第 17 図 千歳地区周辺 B3 (5区北部) 遺構平面図・土層断面図 (1 / 50)

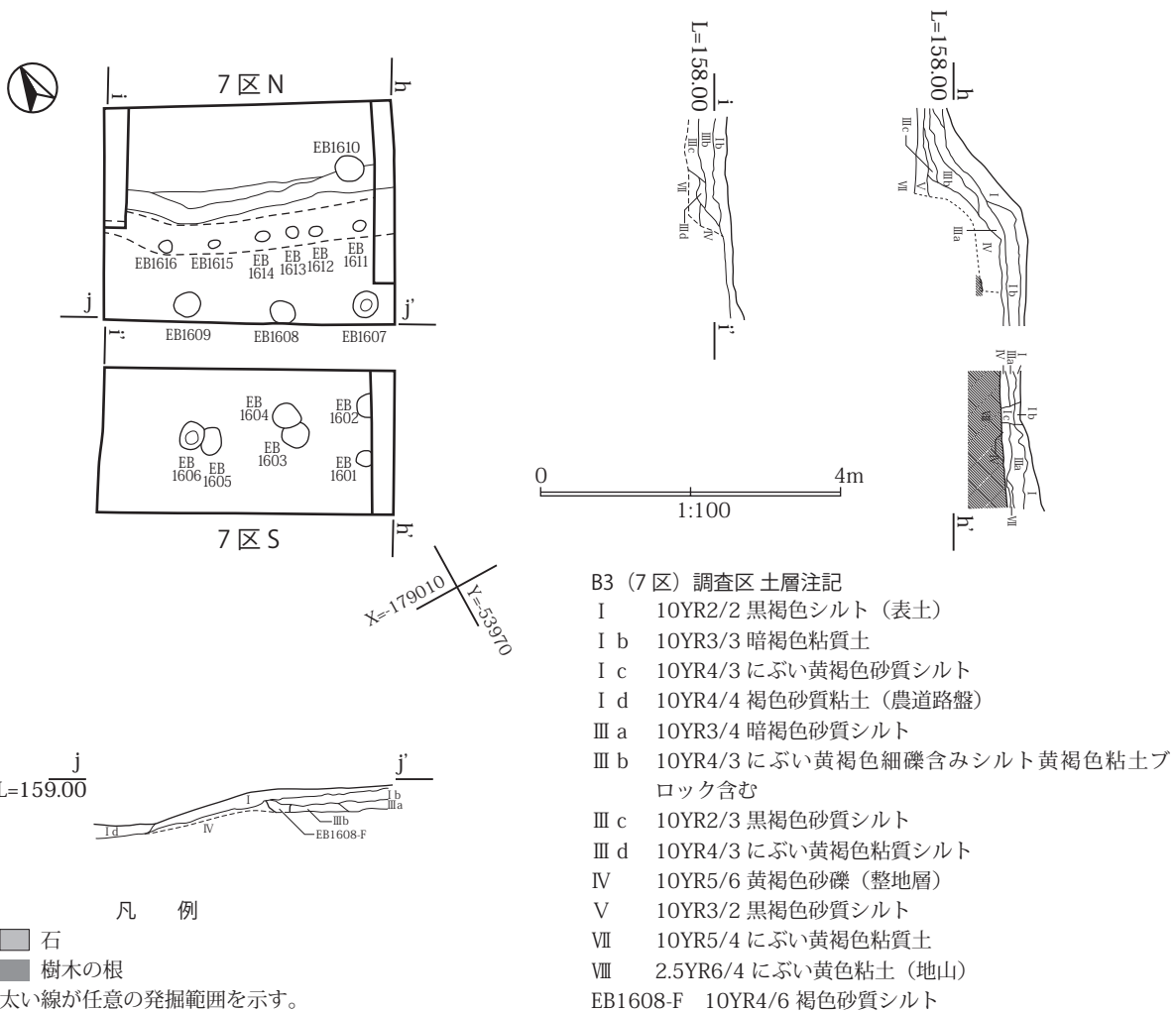


B3 (6T) 調査区 土層注記

- I 10YR2/3 黒褐色シルト
- II 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
- III a 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
- III b 10YR3/2 黒褐色シルト
- IV a 2.5Y6/1 黄灰色砂
- IV b 2.5Y4/1 黄灰色砂
- IV c 2.5Y5/1 黄灰色砂
- V 2.5Y3/1 黒褐色砂
- VII 2.5Y6/6 明るい黄褐色粘土岩盤の礫含む
- VIII 2.5Y6/6 ~ 6/1 明るい黄褐色~黄灰色、礫 (地山)
- SD1621-F 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト
- EB1622・1623-F 10YT4/1 褐灰色砂礫
- EB1624-F 10YR2/3 黒褐色砂
- SD1627-F 10YR5/3 にぶい黄褐色砂
- SX1637-F1 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂
- SX1637-F2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
- SX1637-F3 10YR3/4 暗褐色砂質シルト



第 18 図 千畳敷地区堀切周辺 B 3 6T 遺構平面図・土層断面図 (1 / 100)



B3 (7区) 調査区 土層注記

- I 10YR2/2 黒褐色シルト (表土)
- I b 10YR3/3 暗褐色粘質土
- I c 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
- I d 10YR4/4 褐色砂質粘土 (農道路盤)
- III a 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
- III b 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫含みシルト黄褐色粘土ブロック含む
- III c 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
- III d 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト
- IV 10YR5/6 黄褐色砂礫 (整地層)
- V 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
- VII 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土
- VIII 2.5YR6/4 にぶい黄色粘土 (地山)
- EB1608-F 10YR4/6 褐色砂質シルト

第 19 図 千畳敷地区堀切周辺 B 3 7区 遺構平面図・土層断面図 (1 / 100)

(3) 遺物

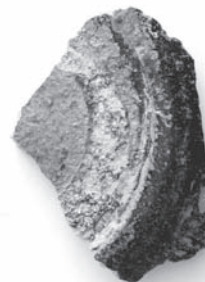
本調査区のうち5区では22点の陶磁器片が出土した。15世紀後半の白磁など城が機能したとみられる時代の遺物も出土したが、堀切とみられる溝跡SD1650の覆土F-5上面から明治以降の在来系陶器、F5から江戸後半の肥前などが出土している。出土遺物は少ないものの層位と遺物の年代に相関関係がみられないことから、城が機能しなくなった後も溝跡SD1650部分は現況より深く掘りこまれた状態であり、江戸後期～明治期以降、今のレベルまで埋められた可能性がある。

主な出土遺物は15世紀末～16世紀前半のものでは15世紀後半の白磁(Ⅲ層下部出土)や16世紀前半の景德鎮の染付とみられる磁器片4点(Ⅱ層、SD1650F-1、同F-3、SX1641F-2)、16世紀後半～17世紀前半のものでは唐津の皿(Ⅱ層)や16世紀後半の瀬戸美濃の鉄釉皿(Ⅱ層)、17世紀前半肥前のタタキ甕(Ⅱ層下部)などが出土している。なお、城が機能していないとされる江戸後半のものでは肥前の陶器片など、明治以降では在来系の陶器片などが出土した。

6TはⅢb層より上層においてのみ遺物が出土した。Ⅳ層以下はサブトレンチを設定して掘り下げており、遺構は検出したものの遺物の出土はなかった。また、7区でも表土以外で遺物の出土がなかった。



No.736 (16末～17初、唐津皿／5区NEⅡ層)



No.737 (16c後半、瀬戸美濃鉄釉皿／5区NEⅡ層)



No.741 (16c前半、景德鎮染付／5区NE1Ⅱ層)



No.734 (17c前半、肥前タタキ甕／5区NE2Ⅱ層)

第20図 千畳敷地区堀切周辺 B3出土遺物1
(写真は実物の80%の大きさ、遺物実測図等は第1期保存整備のための調査成果をまとめた総括報告書で報告を予定する)



No742 (15c 後半、白磁／5区 SE Ⅲ層下部)



No.738 (16c 前半、景德鎮／5区 NE1 SD1650F-3)



No740 (16c 前半、景德鎮／5区 NE2 SD1650F-1)



No.739 (16c 前半、景德鎮／5区 SE SX1641F-2)

第 21 図 千畳敷地区掘切周辺 B3 出土遺物 2

(写真は実物の 80%の大きさ、遺物実測図等は第1期保存整備のための調査成果をまとめた総括報告書で報告を予定する)

VI 八幡平地区楯山公園 B4 の調査

1 調査の概要

(1) 経緯

B04 は八幡平地区に所在する楯山公園内の調査区である（第3図）。標高約 190m 前後で最上川との比高差が約 90 m。眼下の最上川から左沢の街並み、さらに西の朝日連峰までが望まれる眺望から、左沢では「日本一公園」と呼ばれている。

楯山公園については、昭和 43 年に町が造成工事を行った記録がある。現在山形県立朝日少年自然の家が建つ場所にあった丘陵 2,700㎡を削り、楯山公園の最上川舟唄碑側の沢を埋め立てたとされる。その後、四阿やトイレ等が設置され現在に至るが、土の流出がみられるため、平成 19 年には植生土嚢の積立と砂利を敷いて転圧をかける洗掘防止工事が行われている。また、崖から車両の転落もあり防災を兼ねた整備工事が望まれている。

今回の調査は、史跡として旧来の地形を生かした整備を行うため、昭和以降に土が盛られた場所とその下の旧来の地形を確認することや、崖からの転落防止措置を予定する場所の遺構の確認などを目標とする。

(2) 方法と経過

調査では、既知点から ST22 (X: - 178961.137、Y: - 54150.085、標高: 194.774)、ST22A (X: - 178962.981、Y: - 54126.253、標高: 191.366)、ST22A1 (X: - 178980.909、Y: - 54112.839、標高: 190.452)、ST22A2 (X: - 178979.968、Y: - 54107.958、標高: 190.459)、ST22A2A (X: - 178977.191、Y: - 54095.239、標高: 189.128)、ST22B (X: - 178935.726、Y: - 54149.936、標高: 193.453)、ST23 (X: - 178962.166、Y: - 54118.350、標高: 191.676) の 4 級相当の基準点 7 点を設置して使用した。発掘を行った面積は約 50㎡である。

楯山公園出入口部分の地形や遺構を確認するため、公園東側に 1T と 2T、西側に 8T と 9T を設定し、公園南側で崖が落ち込む場所の上端を確認するため 3T を設けた。また、昭和 43 年の造成工事前の地形図と現況地形を比較して、元々段差があったとみられる場所や埋め立てた範囲の境界が想定される場所に 4T ~ 7T を設定した（第 20 図）。

調査では 3T ~ 9T は重機で表土や客土を除去し、手堀で埋め立て前の地表を検出した。重機が使用できない 1T と 2T は地表から人力で掘り下げ、旧来の地形を確認した。記録作成後、崖に面した 3T は土嚢や杭で崩落を防止し、重機と人力で 1T ~ 9T 全ての埋め戻しを行い調査を終了した。

調査は、平成 24 年 10 月 11 日から 10 月 31 日にかけて実働 12 日間実施した。経過は以下のとおりである。

調査の経過

8月27日~29日	地形測量（3D スキャナー、委託業務）
10月11日	調査区の設定
10月12日	重機による表土と客土の除去、楯山公園の立入制限（～31日まで）
10月15日~25日	手堀で旧表土と地形の検出、精査、記録
10月25日~26日	トレンチ内で検出した地形の測量（3D スキャナー）
10月26日~31日	土層の記録、オルソの校正
10月31日	埋め戻し



1T～9Tは発掘を行った範囲、a～gは32・33ページの土層断面図の位置を示す。

第22図 八幡平地区楯山公園B4平面図（1 / 400）

2 調査の成果

(1) 概要

楯山公園では、大規模に土が盛られたことが発掘調査でも確認された。盛土の下にある旧来の表土上面で地形を確認したところ、造成工事が行われる以前、公園部分の尾根の幅は現在より狭く、北側を大きく埋め立てて今の地形が造られたことが分かった。

(2) 地形

公園入り口の地形を確認するために設けた調査区 1T と 2T、8T と 9T は、いずれも岩盤上面まで掘り下げたが明確な遺構は検出されなかった。ただし 1T では岩盤が平らになる部分が確認されており、そこが南側の尾根から楯山公園部分へのアプローチであった可能性がある。

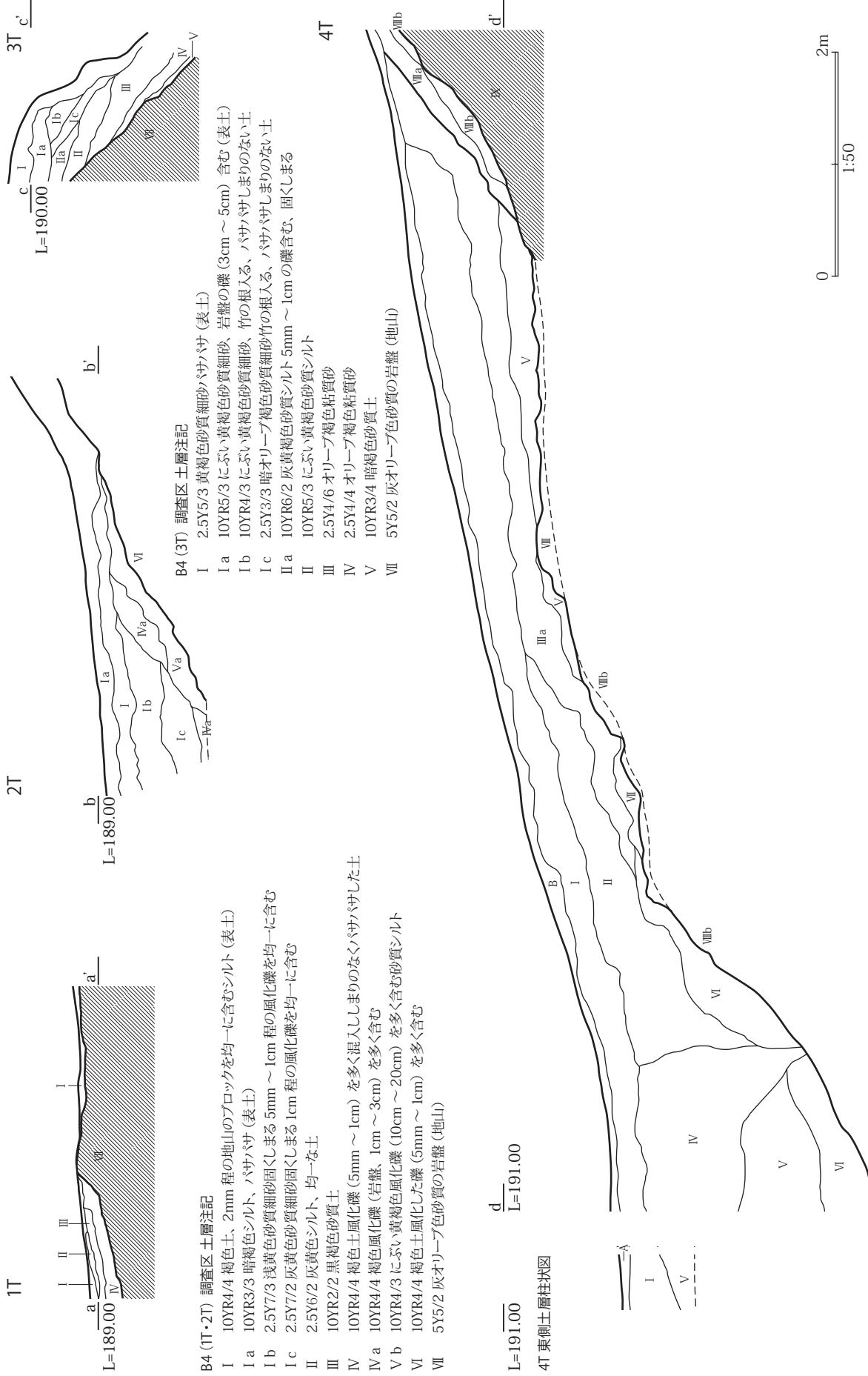
公園南側の崖が落ち込む部分に設けた 3T では、現在の地形と同様に地山の岩盤が南に向かって落ち込む様子を確認した。ただし、岩盤を掘りこむ柱穴などの遺構は検出されなかった。

公園中央部に設けた 6TS と 4T では、昭和 40 年代の造成工事時に盛られたとみられる客土を除去し、その下部に位置する造成工事以前の表土を確認した（第 24 図）。

公園中央付近で南北方向の 6TS では、現在及び旧来の地形が古峰神社のあるピークから北に向かい下がってゆく。造成時の客土下部で確認した地形は、トレンチの南端から約 2 m 北へ下がったところで幅約 3 m の平坦面があり、そこからまた北へ下がった後に幅約 1 m の平坦面を経てさらに北へ下ってゆく。一番北側の北へ下がる傾斜部分は、旧来の尾根の北側斜面にあたる可能性がある。なお、北端の一番深い場所で旧来の地表面を確認した部分は現在の地表面から 2.2 m 下にあたり、そこから現在の地表面までが造成工事で埋められた部分である。

6 T の東側で東西方向の 4 T は、古峰神社のピークから東に向かって下がってゆく。4TS 同様に確認した旧来の地形は、トレンチ西端から東に 2 m 下がったあと、幅 5.5 m の平坦面を挟みながら東に向かって低くなり、トレンチ中央部付近から東へ向かって 2m 程低くなって地形が平坦になる様子がみられる。

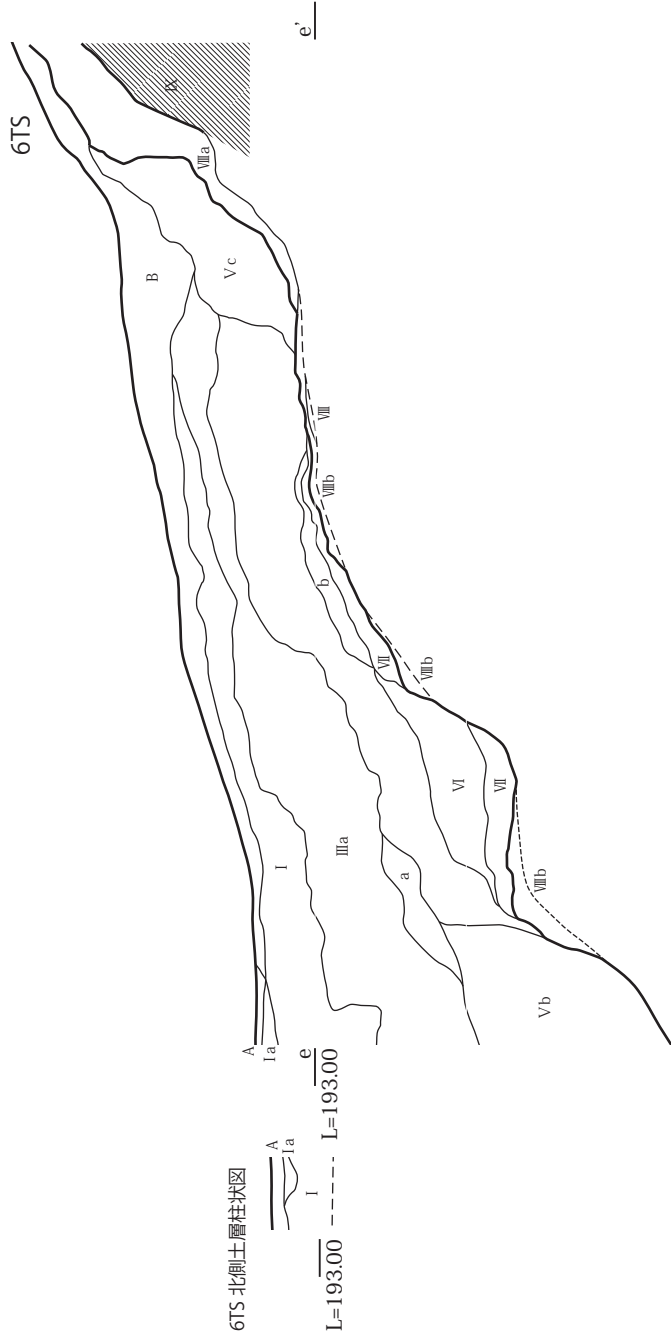
現在の楯山公園は全体的に西から東に向かって低くなる地形であるが、昭和 29 年測量の地形図からは、当該部分がかつて東と西で 2 段に分かれる平坦面により構成されていた様子がうかがわれる。4 T 中央部付近で確認した旧地表面における東西方向の傾斜は、昭和 40 年代の造成以前、2 段に分かれていた地形の段差の部分にあたる可能性がある。



第 23 図 八幡平地区楯山公園 B4 土層断面図 1 (1 / 50)

B4 (4T, 6TS) 調査区土層注記

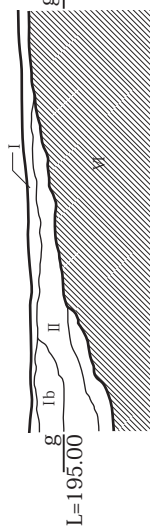
- A 7.5Y5/3 灰オリーブ砂、砕石の礫(砂利) 多く含む、固くしまる(表土)
- B 10YR3/4 暗褐色シルト(表土)
- I 5Y6/4 オリーブ黄色細砂、7.5Y6/2 灰オリーブ色の大ブロックを混入(客土)
- I a 2.5Y6/4 にぶい黄色大小(2mm ~ 3cm) の角礫を多量に混入
- C 7.5YR4/2 灰褐色砂質細砂 3cm ~ 5cm 程の角礫を含む(客土)
- II 5Y6/6 オリーブ色細砂、灰オリーブ色土を多く含む、角礫混入(客土)
- III a 2.5Y6/3 にぶい黄色礫混じり砂質土(客土)
- a 10YR4/1 褐色土(客土)
- IV 2.5Y7/6 明黄褐色、やや粘質、均質の土(客土)
- V 5Y7/3 浅黄色砂質土しまり強い、30cm 程の角礫を混入(客土)
- V b 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土、もろい灰白色 10 ~ 30cm 程の角礫を含む(客土)
- V c 2.5Y7/3 浅黄色砂質土、2.5Y8/2 灰白色の角礫(5cm ~ 20cm) を含む
- VI 2.5Y6/4 にぶい黄色、礫混入(客土)
- VII 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土、2.5Y8/2 灰白色 5 ~ 10cm 程の角礫を含む(客土)
- VIII 7.5YR4/1 褐灰色粘質細砂(旧表土)
- VIII a 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト木の根含む(旧表土)
- VIII b 10YR3/4 暗褐色砂質シルト(旧表土)
- IX 5Y5/2 ~ 6/2 灰オリーブ色、砂質の岩盤(地山)



6TS 北側土層柱状図

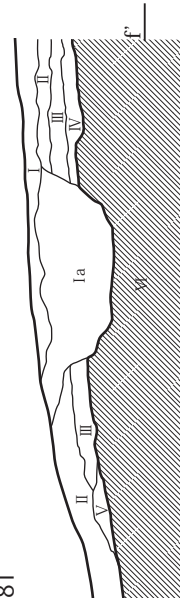
L=193.00

9T



L=195.00

8T



L=195.00

B4 (8T, 9T) 調査区土層注記

- I 10YR4/6 シルト腐植土(表土) 根の混入多い
- I a 2.5Y6/4 にぶい黄色地山礫を多く含む(砂) しまりのない土
- I b 2.5Y6/6 明黄褐色土 5mm 程礫を多く含む
- II 10YR5/6 黄褐色砂質土地山の粒子を含む
- III 2.5Y6/3 にぶい黄色しまり強いシルト地山粒子を多く含む均一な土
- IV 2.5Y4/4 オリーブ褐色 5mm ~ 1cm の地山礫を多く含む微砂質土
- V 2.5Y6/2 灰黄色微砂質土均一な土層
- V a 2.5Y6/4 にぶい黄色地山礫をブロック状に大きく含む
- VI 5Y5/2 灰オリーブ色砂質岩盤(地山)



第24図 八幡平地区植山公園 B4 土層断面図2 (1 / 50)

(3) 遺物

本調査区では小型の杯や皿等が出土したが、いずれも近代以降の遺物であった。6TSのⅧ～Ⅷb層からは近現代の小型の杯や皿のほか、大正十二年の年号が刻まれた硬貨が出土した。

大正から昭和期にかけて、楯山公園付近で虚空蔵信仰にかかる「高い山」と呼ばれる行事が行われた記録がある。愛宕山から楯山公園一帯が宴席で賑わったとされる（『大江町の年中行事』）。これらの遺物はその行事で使用されたり、あるいは楯山公園に所在する古峰神社（大正7年建立）に供えられた可能性がある。

近現代の遺物が出土したことや、Ⅰ～Ⅶ層は楯山を構成する岩盤を削って埋め立てた土であることから、Ⅷ～Ⅷb層は昭和40年代の造成工事以前の表土とみられる。



B4 6TS Ⅷ～Ⅷb 層出土遺物



B4 6TS 出土 大正 12 年の年号が刻まれた硬貨

第 25 図 八幡平地区楯山公園Ⅷ～Ⅷb 層（旧表土）出土遺物

左沢楯山城跡サンプルの年代測定

山形大学 YU-AMS グループ

1. はじめに

左沢楯山城跡試料に対して、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

表 1 に左沢楯山城跡試料の情報と前処理方法を示す。測定した試料のラボコードは YU-1070 から YU-1084 である。それぞれの測定試料は、山形大学総合研究所 4 階の試料作製室にて前処理作業を行った。続いて、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインより構成されるグラフィット調整システムにて、サンプルのグラフィット化を行った。その後、総合研究所 1 階に設置した加速器質量分析計（YU-AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて放射性炭素年代を測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 2 に、左沢楯山城跡試料の放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果を示す。各結果には、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。各サンプルの暦年較正結果については、本報告書に添付した。

=== 年代測定の考え方 ===

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。 ^{14}C 年代の暦年較正には 0xCal4.1.7¹⁾ (較正曲線データ：Intcal09²⁾) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、0xCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

参考文献

- 1) Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- 2) Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., & Weyhenmeyer, C. E. (2009). IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 51(4), 1111-1150

表 1 - 1. 左沢桶山城跡試料の情報-I

ラボコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
YU-1070	1_tym_1T_1	(2012.11.6受取) 1左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 1T ① F1出土	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1071	2_tym_1T_2	(2012.11.6受取) 2左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 1T ② F1出土	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1072	3_tym_1T_3	(2012.11.6受取) 3左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 1T ③ F1出土	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1073	4_tym_4TE_1	(2012.11.6受取) 4左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TE ① ④層上面	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (4回)
YU-1074	5_tym_4TE_2	(2012.11.6受取) 5左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TE ② ④層上面	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (4回)
YU-1075	6_tym_4TE_3	(2012.11.6受取) 6左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TE ③ ④層上面	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (4回)
YU-1076	7_tym_4TW_1	(2012.11.6受取) 7左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TW ① ③整地層	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1077	8_tym_4TW_2	(2012.11.6受取) 8左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TW ② ③整地層	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1078	9_tym_4TW_3	(2012.11.6受取) 9左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 4TW ③ ③整地層	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間

表 1 - 2. 左沢桶山城跡試料の情報-II

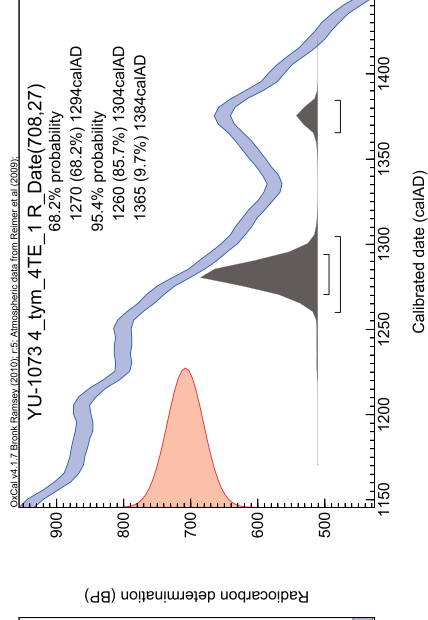
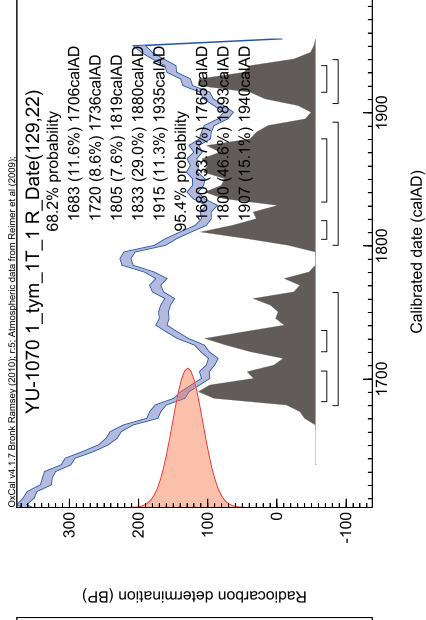
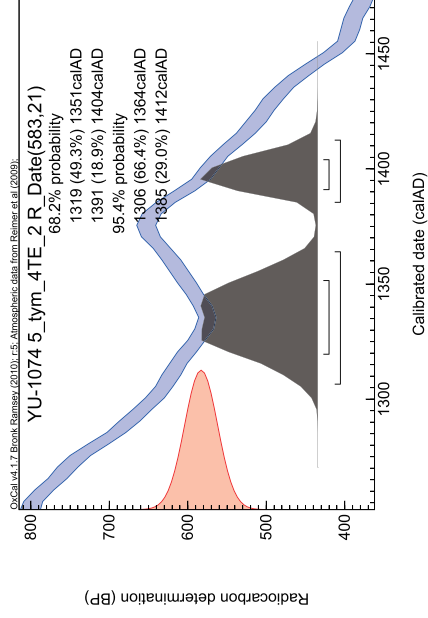
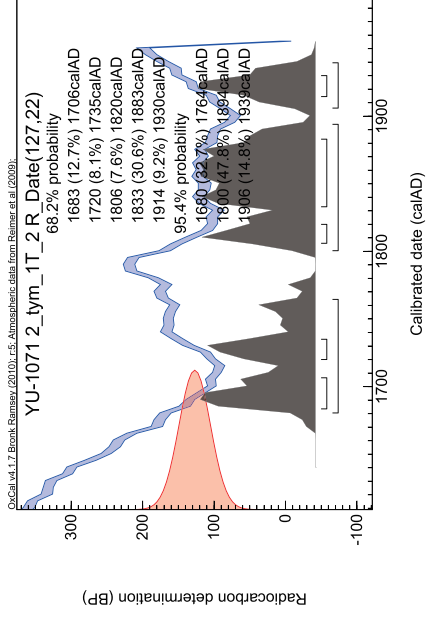
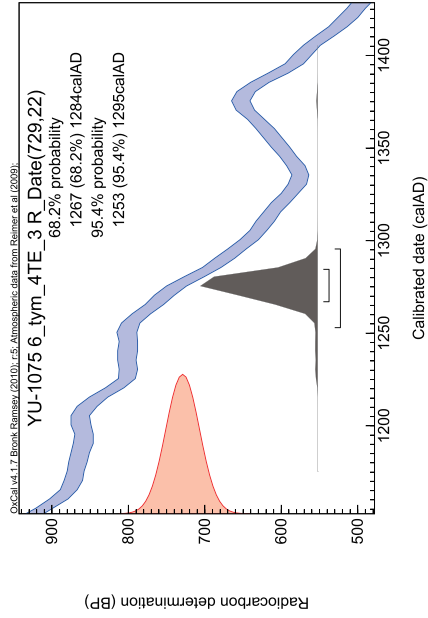
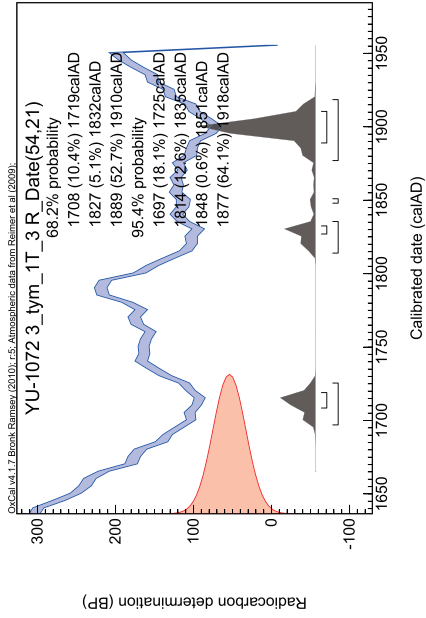
ラボコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
YU-1079	10_tym_6TW_1	(2012.11.6受取) 10左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW ① F1	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (4回)
YU-1080	11_tym_6TW_2	(2012.11.6受取) 11左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW ② F1	炭化物	超音波洗浄 (純水、アセトン) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1081	12_tym_6TW_3	(2012.11.6受取) 12左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW ③ F1	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (4回)
YU-1082	13_tym_6TW	(2012.11.6受取) 13左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW	土壌	酸処理 1M HCl 80度1時間 (2回)
YU-1083	14_tym_6TW_1	(2012.11.6受取) 14左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW ①	炭化物	超音波洗浄 (純水) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間
YU-1084	15_tym_6TW_2	(2012.11.6受取) 15左沢桶山城跡 2012.10.30採取 C21 6TW ②	炭化物	超音波洗浄 (純水) AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (2回) 1M HCl 80度1時間

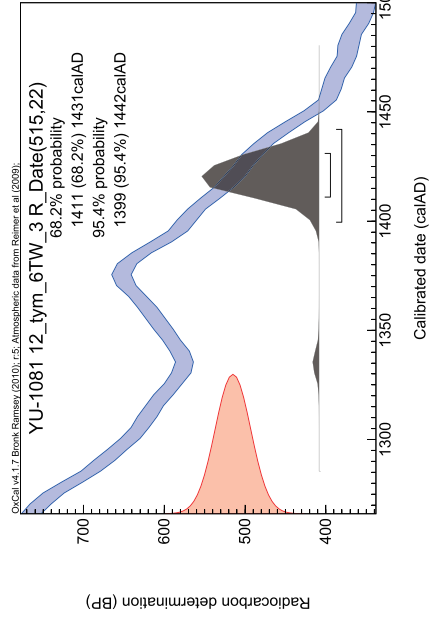
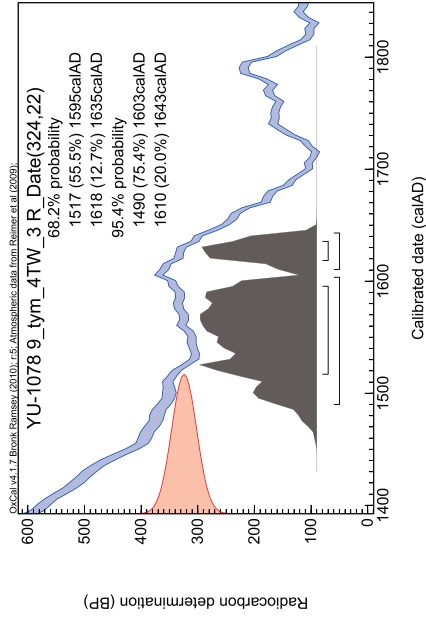
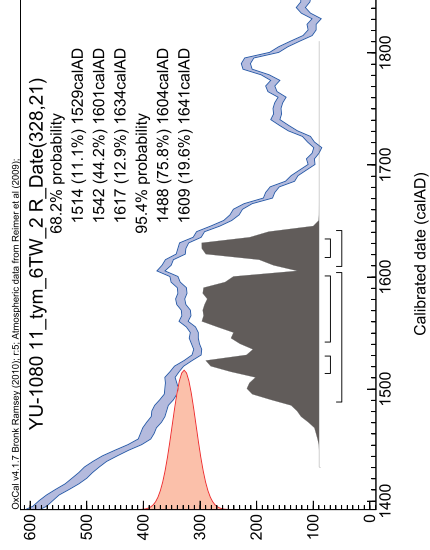
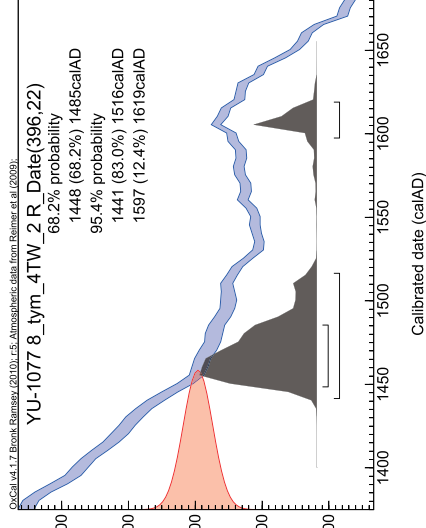
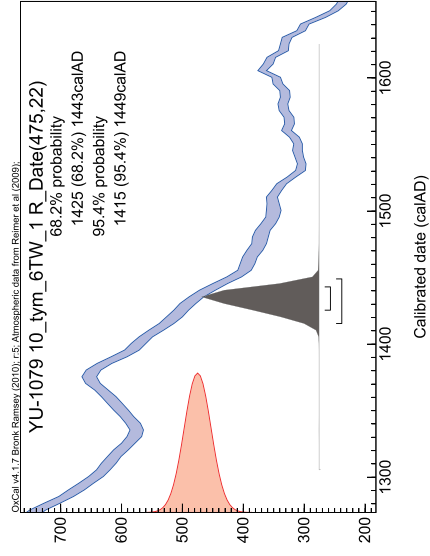
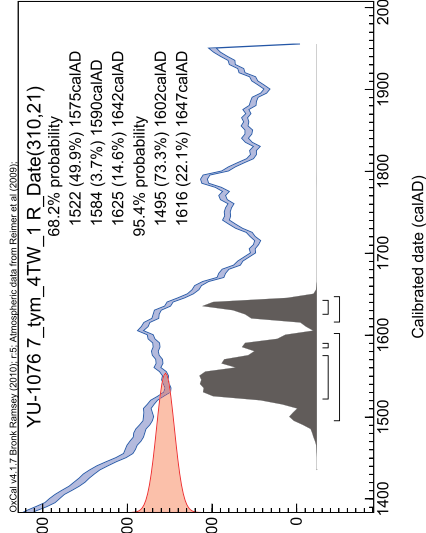
表 2-1. 左沢橋山城跡試料の放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果-I

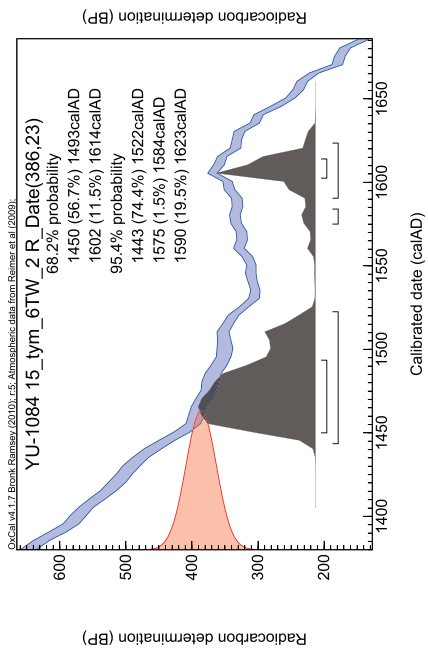
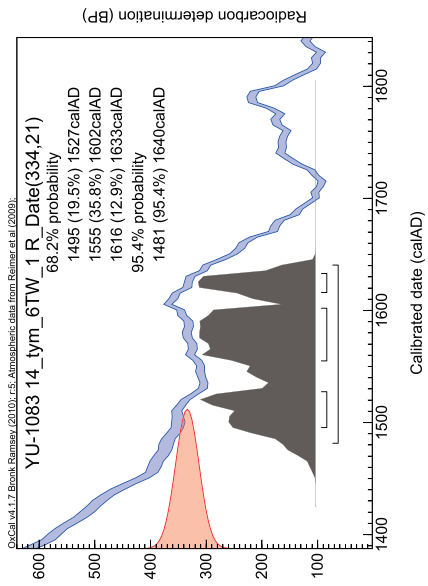
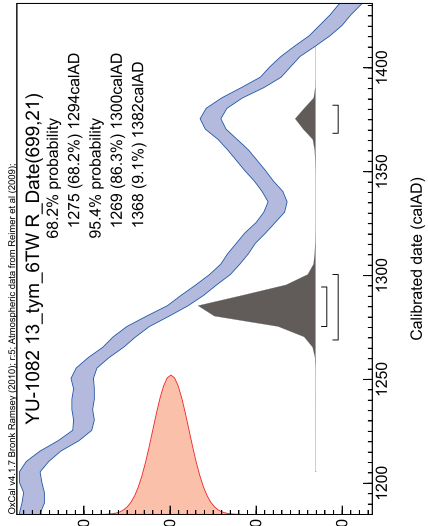
測定番号	試料名	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm b$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU-1070	1_tym_1T_1	-25.03 \pm 0.17	129 \pm 22	130 \pm 20	1683AD (11.6%) 1706AD 1720AD (8.6%) 1736AD 1805AD (7.6%) 1819AD 1833AD (29.0%) 1880AD 1915AD (11.3%) 1935AD	1680AD (33.7%) 1765AD 1800AD (46.6%) 1893AD 1907AD (15.1%) 1940AD
YU-1071	2_tym_1T_2	-25.62 \pm 0.16	127 \pm 22	125 \pm 20	1683AD (12.7%) 1706AD 1720AD (8.1%) 1735AD 1806AD (7.6%) 1820AD 1833AD (30.6%) 1883AD 1914AD (9.2%) 1930AD	1680AD (32.7%) 1764AD 1800AD (47.8%) 1894AD 1906AD (14.8%) 1939AD
YU-1072	3_tym_1T_3	-28.75 \pm 0.17	54 \pm 21	55 \pm 20	1708AD (10.4%) 1719AD 1827AD (5.1%) 1832AD 1889AD (52.7%) 1910AD	1697AD (18.1%) 1725AD 1814AD (12.6%) 1835AD 1848AD (0.6%) 1851AD 1877AD (64.1%) 1918AD
YU-1073	4_tym_4TE_1	-32.41 \pm 0.23	708 \pm 27	710 \pm 25	1270AD (68.2%) 1294AD	1260AD (85.7%) 1304AD 1365AD (9.7%) 1384AD
YU-1074	5_tym_4TE_2	-21.72 \pm 0.18	583 \pm 21	585 \pm 20	1319AD (49.3%) 1351AD 1391AD (18.9%) 1404AD	1306AD (66.4%) 1364AD 1385AD (29.0%) 1412AD
YU-1075	6_tym_4TE_3	-22.28 \pm 0.17	729 \pm 22	730 \pm 20	1267AD (68.2%) 1284AD	1253AD (95.4%) 1295AD
YU-1076	7_tym_4TW_1	-24.79 \pm 0.18	310 \pm 21	310 \pm 20	1522AD (49.9%) 1575AD 1584AD (3.7%) 1590AD 1625AD (14.6%) 1642AD	1495AD (73.3%) 1602AD 1616AD (22.1%) 1647AD
YU-1077	8_tym_4TW_2	-22.02 \pm 0.17	396 \pm 22	395 \pm 20	1448AD (68.2%) 1485AD	1441AD (83.0%) 1516AD 1597AD (12.4%) 1619AD
YU-1078	9_tym_4TW_3	-25.35 \pm 0.18	324 \pm 22	325 \pm 20	1517AD (55.5%) 1595AD 1618AD (12.7%) 1635AD	1490AD (75.4%) 1603AD 1610AD (20.0%) 1643AD

表 2-2. 左沢橋山城跡試料の放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果-II

測定番号	試料名	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm b$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU-1079	10_tym_6TW_1	-24.30 \pm 0.23	475 \pm 22	475 \pm 20	1425AD (68.2%) 1443AD	1415AD (95.4%) 1449AD
YU-1080	11_tym_6TW_2	-26.30 \pm 0.23	328 \pm 21	330 \pm 20	1514AD (11.1%) 1529AD 1542AD (44.2%) 1601AD 1617AD (12.9%) 1634AD	1488AD (75.8%) 1604AD 1609AD (19.6%) 1641AD
YU-1081	12_tym_6TW_3	-22.88 \pm 0.19	515 \pm 22	515 \pm 20	1411AD (68.2%) 1431AD	1399AD (95.4%) 1442AD
YU-1082	13_tym_6TW	-22.58 \pm 0.17	699 \pm 21	700 \pm 20	1275AD (68.2%) 1294AD	1269AD (86.3%) 1300AD 1368AD (9.1%) 1382AD
YU-1083	14_tym_6TW_1	-24.91 \pm 0.18	334 \pm 21	335 \pm 20	1495AD (19.5%) 1527AD 1555AD (35.8%) 1602AD 1616AD (12.9%) 1633AD	1481AD (95.4%) 1640AD
YU-1084	15_tym_6TW_2	-21.72 \pm 0.17	386 \pm 23	385 \pm 25	1450AD (56.7%) 1493AD 1602AD (11.5%) 1614AD	1443AD (74.4%) 1522AD 1575AD (1.5%) 1584AD 1590AD (19.5%) 1623AD









八幡座地区山頂部C 1 曲輪東側下部（東から）

写真図版 1



八幡座地区山頂部C 1 曲輪東部（南東から）

写真図版 2



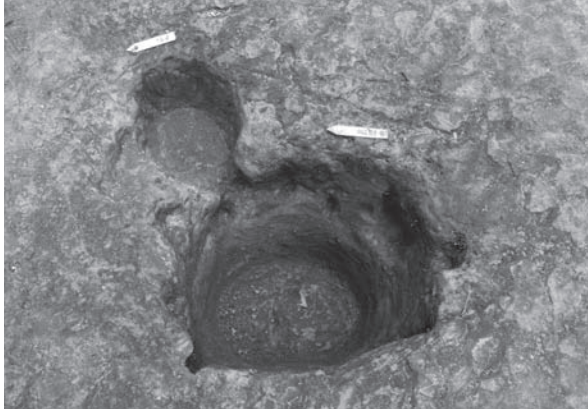
八幡座地区山頂部C 1 曲輪東部（北から）

写真図版 3

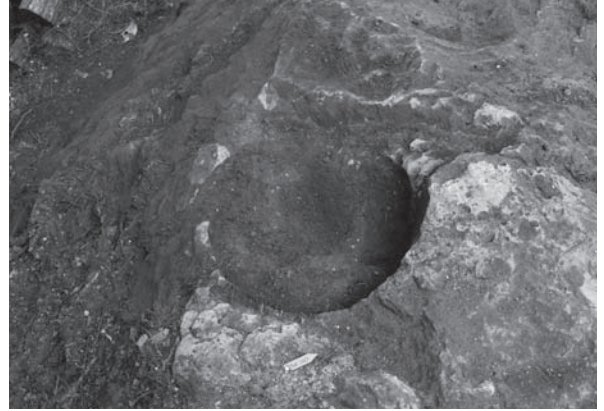


八幡座地区山頂部C 1 曲輪東側斜面の土層断面（北から）

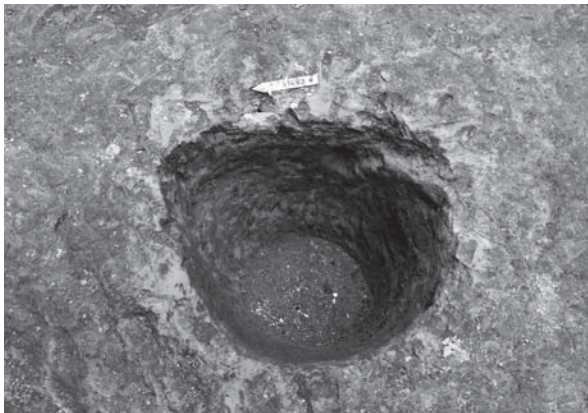
写真図版 4



左 EB1458 (SB1750)、右 EB770 (SB1411)



EB1705 (SA1753)



EB769 (SB1750・SB1750 重複)



EB1743 (SA1752)



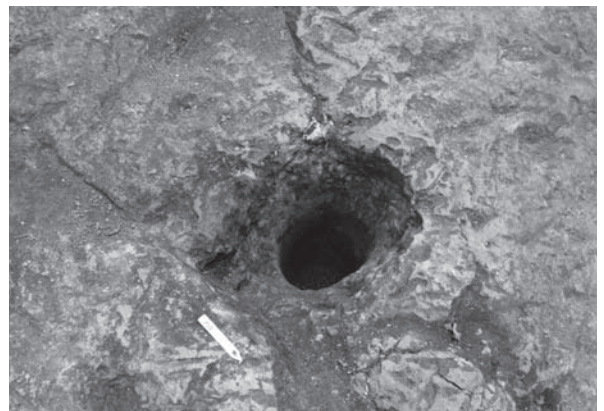
EB1754 (SA1754)



EB1737 (SA1754)



EB1735 (SA1754)



EB1436 (SA1751)

八幡座地区山頂部 C1 調査区写真



八幡座地区谷部 C21 5 区・3T 溝跡 SD1511 (東から)

写真図版 6



八幡座地区谷部 C21 5 区・3T 溝跡 SD1511、SD1512 土層断面 (南西から)

写真図版 7



八幡座地区谷部 C21 4TW 整地層③と遺物出土状況（南東から）

写真図版 8



八幡座地区谷部 C21 全景（南から）

写真図版 9



1T、4TW・4TE (南東から)



4TE・4TW (東から)



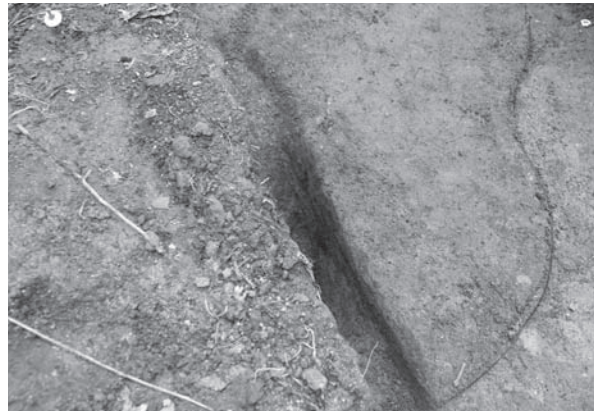
4TW 土層断面 (南から)



6TW 土層断面 (南東から)



6TE SX1536、SX1537 (北から)



6TE SX1536 の断面 (西から)



2TS (南から)



2TS 土層断面 (南東から)

八幡座地区谷部 C21 調査区写真



5区 SE 溝跡 SD1650 (北から)



5区 SE-NE1 断面 (東から)



5区 NE2 溝跡 SD1650 (北から)



5区 NE1 溝跡 SD1650 (北東から)



5区 NE1-NE2 溝跡 S D 1 6 5 0 (溝の底)



5区 NE1-NE2 溝跡 SD1650 断面



5区 SW-ZW (西から)



5TP 溝跡 SD1650 (北から)

千畳敷地区堀切周辺 B3 調査区写真 (5区)



6T 全景 (北から)



6T 土層断面 (西から)



6T II～VIII層 (南西から)



6T IV層及びVIII層検出遺構 (西から)

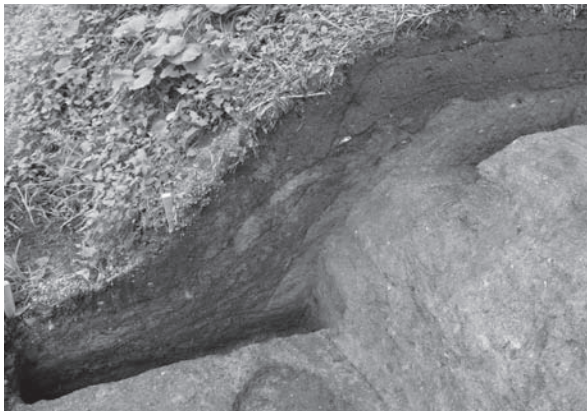


6T SX1637 (北から)

千畳敷地区堀切周辺 B3 調査区写真 (6T)



7区全景（北西から）



7区S西側土層断面（北東から）



7区S南側土層断面（北から）



7区N遺構検出状況（西から）



7区S 東側土層断面（西から）

千畳敷地区堀切周辺 B3 調査区写真（7区）



八幡平地区楯山公園 B4 (北東から)

写真図版 14



八幡平地区楯山公園 B4 4T と 6TS 全景 (南から)

写真図版 15



八幡平地区楯山公園 B4 4T (北東から)

写真図版 16



八幡平地区楯山公園 B4 6TS (北東から)

写真図版 17



3T 全景 (東から)



3T 土層断面 (西から)



1T 全景 (南西から)



2T 全景 (西から)



8T・9T 全景 (南から)

八幡平地区楯山公園 B4 調査区写真

報告書抄録

ふりがな	あてらざわたてやまじょうあとちょうさほうこくしょ							
書名	左沢楯山城跡調査報告書(13)							
副書名	史跡左沢楯山城跡第1期保存整備に伴う確認調査報告書(2)							
シリーズ名	大江町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第15集							
編著者名	菊地 泰子							
編集機関	大江町教育委員会							
所在地	〒990-1163 山形県西村山郡大江町大字本郷丁373-1 TEL 0237(62)3666							
発行年月日	2013年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
あてらざわたてやまじょうあと 左沢楯山城跡	やまがたけん にしむらやまくん 山形県西村山郡 おおえまち おおあざ あてらざわ 大江町大字左沢	06324	031	38° 23' 05"	140° 13' 00"	20120801 ～ 20121031	290.4m ²	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
左沢楯山城跡	城館	中世～近世	掘立柱建物跡、溝跡	磁器、陶器				
要約	<p>左沢楯山城は五百川峡谷から村山盆地に最上川が流れ出る場所に位置する。城は正平年間、左沢(大江)元時が築城したとされ、「村山地方の中世から近世に至る動向を知るうえで貴重な城跡である」ことから、平成21年国史跡の指定を受けた。大江町は平成23年から保存整備を目的とした発掘調査を4カ年で計画した。本書はその2年目の調査概要をまとめたものである。</p> <p>城は自然の沢(蛇沢)を取り込んだ構造で、東西約480メートルの規模である。今回は八幡座地区山頂部C1「八幡座」と呼ばれる曲輪などで調査を行った。</p> <p>C1では2間×2間の掘立柱建物跡が重複して検出されたほか、柵列または塀とみられる柱列等を確認した。虎口や時期の検証に課題が残る。</p> <p>八幡座地区の谷部に設定したC21では底に石が並ぶ溝跡や柱穴跡等を異なる土層から検出した。各遺構や土層が形成された時代と性格の検討が課題である。遺物は16世紀の越前の壺などが出土した。</p> <p>千疊敷地区の堀切周辺に設定したB3では幅4m以上の溝跡等を検出。堀切とみられる旧来の地形確認を進めた。16世紀の大産磁器等が出土したものの、土層との相関関係がみられないため溝が埋められた時代や形状の変化等を検討する必要がある。</p> <p>八幡平地区の楯山公園に設定したB4では、昭和40年代の造成範囲と旧来の地形を確認した。</p>							

文 献

- 日本貿易陶磁研究会編 1982『貿易陶磁研究』No.2
大江町教育委員会編 1984『大江町史』
大江町老人クラブ連合会経ん 1984『大江町の年中行事』
山形県 1986『土地分類基本調査』「表層地質図」
市村 高男 2002 「中世出羽の海運と城館」『中世出羽の領主と城館』高志書院
大場 雅行 2002 「出羽南部の城館」『中世出羽の領主と城館』高志書院
川崎 利夫ほか 2002 『左沢楯山城跡調査報告書（6）』
藤沢 良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
伊藤 清郎ほか 2007 『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
伊藤 清郎 2007 「V考察 5 成果と課題」『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
川崎 利夫 2007 「V考察 1 出土遺物から見た左沢楯山城跡」『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
北畠 教爾 2007 「V考察 3 文献からみた左沢楯山城跡」『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
日下部 美紀 2007 「IV 遺構と遺物」『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
宮本 長二郎 2007 「V考察 2 左沢楯山城跡の建造物」『左沢楯山城跡調査報告書（9）』
上田 美紀 2008 『左沢楯山城跡』
阿子島 功 2010 「Ⅲ 史跡とその周辺の環境 1 自然環境（1）地理・地形・地質」『史跡左沢楯山城跡保存管理計画書』
渋谷 孝雄 2012 「第4章歴史的特性 第1節平安時代以前の大江町」『大江町と最上川の流通・往来の景観保存調査報告書』

2013年3月29日 発行

左沢楯山城跡調査報告書（13）

大江町埋蔵文化財調査報告書 第15集

史跡左沢楯山城跡第1期保存整備に伴う確認調査報告書（2）

発行者 山形県西村山郡大江町大字本郷丁 373 - 1
TEL 0237 (62) 3666
大江町教育委員会
印刷者 山形県寒河江市中央工業団地 58
寒河江印刷 株式会社